AVコントローラー

DHC-80.6

WEB詳細ガイド

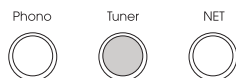
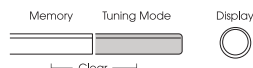
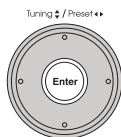
Integra

目次

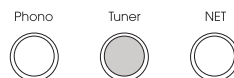
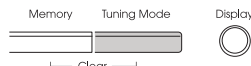
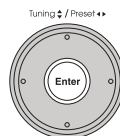
AM/FM放送受信の詳細

放送局を選局する

■ 自動で選局する

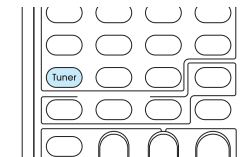
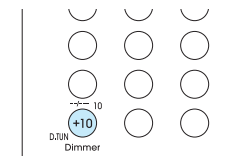
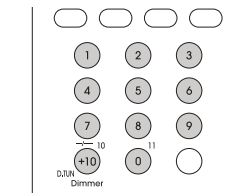
1. 本体のTunerボタンをくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。

2. Tuning Modeボタンを押して、表示部の「AUTO」を点灯させます。

3. Tuning▲▼ボタンを押して、自動選局を始めます。
   - 放送局が見つかると選局は自動的に停止し、表示部の「►TUNED◄」が点灯します。FMステレオ放送を受信した場合は、「FM STEREO」が点灯します。
   - 「►TUNED◄」が消灯している間は、音が出ません。

FM放送を受信しにくいときは：建物の構造や周囲の環境によって電波状況が異なり受信状態が悪くなることがあります。その場合、次項の「手動で選局する」を参照しながら、ご希望の放送局に応じて手動で選局してください。

■ 手動で選局する

1. 本体のTunerボタンをくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。

2. Tuning Modeボタンを押して、表示部の「AUTO」を消灯させます。

3. Tuning▲▼ボタンを押しながら、聴きたい放送局を選びます。
   - ボタンを押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、離すと止まります。表示部を見ながら周波数を合わせてください。

自動で選局する方法に戻す：本体のTuning Modeボタンを再度押すと、自動的に放送局を受信します。通常は、「AUTO」表示にしておいてください。

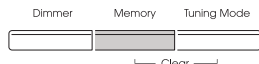
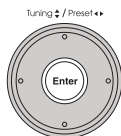
■ 周波数を直接入力する

お聴きになりたい放送局の周波数を直接入力する操作方法です。

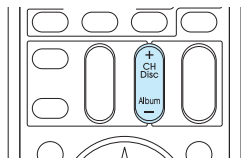
1. リモコンのTunerボタンをくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。

2. D.TUNボタンを押します。

3. 数字ボタンで、8秒以内に放送局の周波数を入力します。
   - たとえば、87.5（FM）を入力する場合、8、7、5と押します。間違った番号を入力した場合は、D.TUNボタンを押すと再入力できます。

放送局を登録する

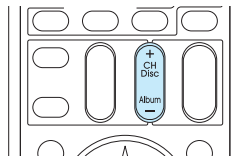
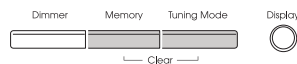
お好きなAM/FM放送局を最大40局まで登録できます。放送局をあらかじめ登録しておけば、周波数で合わせなくても、すばやく選局できます。

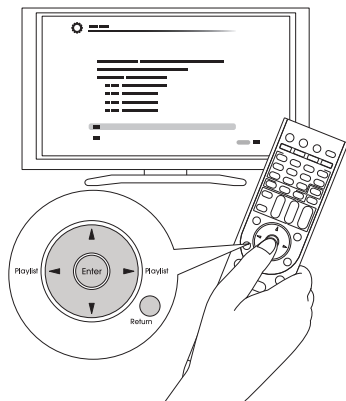
■ 登録する

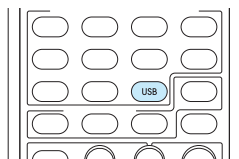
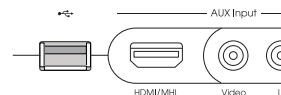
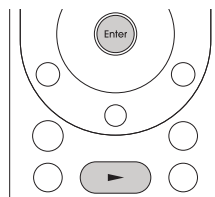
1. 登録したいAM/FM放送局を受信します。
2. 本体のMemoryボタンを押して、表示部のプリセット番号を点滅させます。

3. プリセット番号が点滅している間(約8秒間)に、Preset◄►ボタンをくり返し押して1～40の間で番号を選びます。

4. 再度Memoryボタンを押して登録します。
   - 登録すると、プリセット番号の点滅が止まります。
   - この手順をくり返して、お好きなAM/FM放送局を登録してください。

■ 登録したプリセット局を選ぶ

1. リモコンのCH +/–ボタンを押して、プリセット番号を選びます。
   - 本体のPreset◄►ボタンを押して選ぶこともできます。また、リモコンの数字ボタンで直接プリセット番号を入力して選ぶこともできます。

■ 登録したプリセット局を削除する

1. リモコンのCH +/–ボタンを押して、削除したいプリセット番号を選びます。

2. 本体のMemoryボタンを押しながらTuning Modeボタンを押して、プリセット番号を削除します。
   - 削除されたら、表示部から番号が消えます。

USBストレージの音楽を再生する

●**設定操作は**：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 再生する

1. リモコンのUSBボタンを押して、「USB」を選びます。

2. 本体のUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続して、表示部に「USB」を点灯させます。
   - 「USB」が点滅する場合は、USBストレージが正しく接続されているか確認してください。
   - 表示部に「Connecting…」が表示されている間は、本機と接続しているUSBストレージを抜かないでください。データ破損や故障の原因になります。

3. Enterボタンを押します。
   - USBストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されますので、カーソルでフォルダを選び、Enterボタンを押して決定してください。
   - 本体表示部は日本語の表示には対応しておりません。表示できない文字は「＊」に置き換わります。
4. カーソルで音楽ファイルを選び、Enterボタンまたは►ボタンを押して再生を始めます。

インターネットラジオを聴く

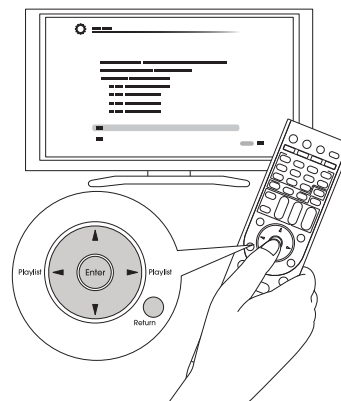
インターネットラジオの概要

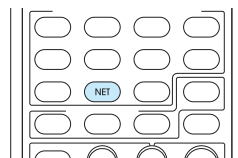
インターネットラジオとは、ネットラジオ、Webラジオ、ストリーミング放送などとも呼ばれ、音楽や音声番組をデジタル化して配信するサービスプロバイダーサイトの総称です。このようなサービスを行っているサイトは、地上波ラジオ局や専門局から個人サイトまで、世界中に数え切れないほどあります。
本機にはradiko.jpやTuneInなどのインターネットラジオ局(＊)があらかじめ登録されており、本機をネットワークに接続するだけでこれらのサービスを楽しむことができます。

＊ サービスプロバイダーがサービスを終了していると、そのネットワークサービスやコンテンツが利用できなくなる場合があります。

radiko.jp

radiko.jpは、地上波のラジオ放送を、放送エリアに準じた地域にCMも含めてそのまま同時に配信するサービスです。聴取可能エリア、対応放送局などについては、radiko.jpのホームページ(http://radiko.jp)でご確認ください。

●設定操作は：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 再生する

1. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。

2. カーソルで「radiko.jp」を選び、Enterボタンを押して、radiko.jpのトップ画面を表示させます。
3. カーソルでラジオ局や番組を選び、Enterボタンを押して再生を始めます。
   - 本体表示部は日本語の表示には対応しておりません。表示できない文字は「＊」に置き換わります。

■ radiko.jpのメニューについて

放送局の再生中にMenuボタンまたはEnterボタンを押すと、radiko.jpのメニューが表示されます。カーソルで項目を選んでEnterボタンを押すと、以下の操作が行えます。

Today's Program：当日の番組一覧を表示します。

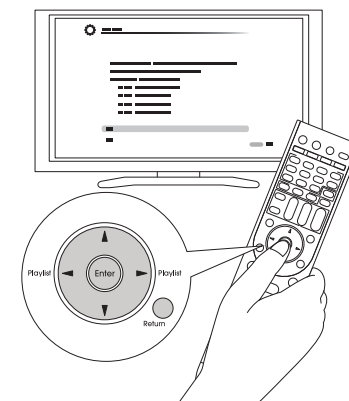
Tomorrow's Program：明日の番組一覧を表示します。

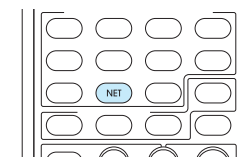
Program's detail：再生中の番組の詳細を表示します。

Topics：放送された楽曲リストやおすすめ情報など、放送をより楽しむための情報を表示します。

TuneIn

TuneInは世界中の音楽、スポーツ、ニュースなどが手軽に聴ける、7万を超えるラジオ局、200万を超えるオンデマンド番組が登録されたサービスです。

●設定操作は：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 再生する

1. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。

2. カーソルで「TuneIn」を選び、Enterボタンを押して、TuneInのトップ画面を表示させせます。
3. カーソルでラジオ局や番組を選び、Enterボタンを押して再生を始めます。
   - 本体表示部は日本語の表示には対応しておりません。表示できない文字は「＊」に置き換わります。

■ TuneInのメニューについて

放送局の再生中にMenuボタンまたはEnterボタンを押すと、TuneInのメニューが表示されます。カーソルで項目を選んでEnterボタンを押すと、以下の操作が行えます。

マイプリセットに登録：ラジオ局や番組をTuneInの「マイプリセット」に登録します。登録したラジオ局や番組を簡単な操作で再生できます。（ラジオ局や番組が登録されていない場合は、「マイプリセット」は表示されません。）

マイプリセットから削除：ラジオ局や番組をTuneInの「マイプリセット」から削除します。

問題を報告する：TuneInに関する問題の報告や、対話形式で問題の解決を行います。

スケジュールをチェックする：ラジオ局や番組の番組表を表示します。

最近聴いたものをクリアする：TuneInの「最近聴いたもの」のラジオ局や番組をすべて消去します。（「最近聴いたもの」の放送局を再生中の場合のみ、このメニューが表示されます。）

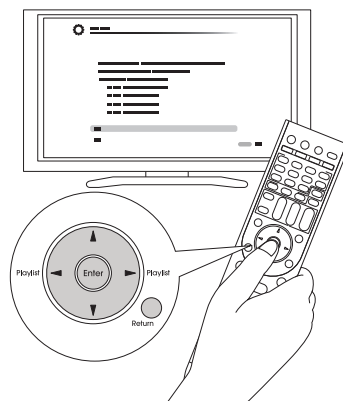
My Favoritesに登録：ラジオ局や番組を「ネットワークサービス」の「My Favorites」に登録します。登録したラジオ局や番組を簡単な操作で再生できます。

■ TuneInアカウントについて

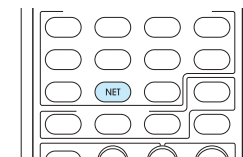
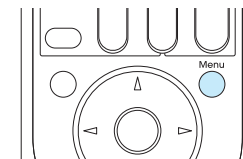
TuneInのホームページ（tunein.com）でアカウントを作成し、本機からログインするとホームページ上で保存したお気に入りのラジオ局や番組が、本機の「マイプリセット」に自動的に追加されます。
「マイプリセット」に追加されたラジオ局を表示するには、本機の操作においてもTuneInにログインする必要があります。ログインは本機の「TuneIn」のトップリストから「ログイン」–「TuneInアカウントでログイン」を選び、ユーザー名とパスワードを入力してください。
- 本機で「ログイン」–「登録コードでログイン」を選ぶと表示される登録コードを使って、TuneInホームページのマイページからデバイスの関連付けを行うと、ユーザ名とパスワードの入力を省略してログインすることができます。

他のインターネットラジオを登録する

本機に登録されているインターネットラジオ番組以外の番組を聴くには、以降の手順で番組をNET TOP画面の「My Favorites」リストに登録します。本機は、PLS形式（URL末尾：pls）、M3U形式（URL末尾：m3u）、RSS形式（URL末尾：rss/rdf/xml）のインターネットラジオ局に対応しています。
- 登録できるインターネットラジオ局は40局までです。
- PLS形式、M3U形式、Podcast（RSS）形式のインターネットラジオ局でも、データの種類や再生フォーマットによっては再生できない場合があります。
- お住まいの地域によって利用できるサービスは異なります。

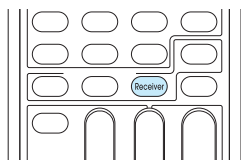
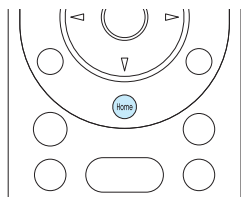
●設定操作は：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 登録する

操作を始める前に：登録操作には、追加するラジオ局の名前とURLが必要になります。事前にご確認ください。

1. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。

2. カーソルで「My Favorites」を選び、Enterボタンを押して、「My Favorites」のリスト画面を表示させせます。
3. カーソルで「My Favorites」の何も表示されていない箇所を選び、Menuボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

4. カーソルで「新しいステーションを追加」を選び、Enterボタンを押して、キーボード画面を表示させせます。
5. 追加するラジオ局の名前とURLを入力します。
   - 「Shift」を選びEnterボタンを押すと、大文字/小文字が切り換わります。「←」「→」を選びEnterボタンを押すと、その方向にカーソルが移動します。「Back Space」を選びEnterボタンを押すと、カーソルの左側の文字が1文字消去されます。

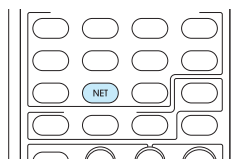
■ PCを使用して登録する

操作を始める前に：登録操作には、追加するラジオ局の名前とURLが必要になります。事前にご確認ください。

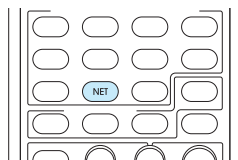
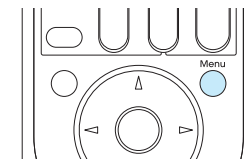
1. リモコンのReceiverボタンを押します。
   - 他の機器を操作するリモートモードに切り換わっていることがあるため、Receiverボタンを押してReceiverモード（本機を操作するモード）にしてから操作してください。

2. Homeボタンを押して、HOMEメニューを表示させます。

3. カーソルで「セットアップ」を選んで、Enterボタンを押します。
4. カーソルで「7. ハードウェア設定」-「ネットワーク」-「IPアドレス」の順に選び、IPアドレスを表示させます。
   - IPアドレスは以降の操作で使用しますので、メモするなどしておいてください。
5. PCやスマートフォンなどでインターネットブラウザを開き、URL欄に本機のIPアドレスを入力します。
   - Internet Explorerをご利用の場合は「ファイル」から「開く」を選び、IPアドレスを入力する方法もあります。
   - ブラウザに本機の情報が表示されます。（「WEB Setup」）
6. 「My Favorites」タブをクリックして、インターネットラジオ局の名前とURLを入力します。
7. 「Save」をクリックして、入力したインターネットラジオ局を「My Favorites」に登録します。

登録したラジオ局の名前を変更するには：「My Favorites」リストでラジオ局を選び、Menuボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。カーソルで「ステーション情報を変更」を選び、Enterボタンを押すと、キーボード画面が表示されますので、お好みの名前に変更してください。
- ラジオ局の名前は、「WEB Setup」から変更することもできます。

■ 登録したラジオ局を再生する

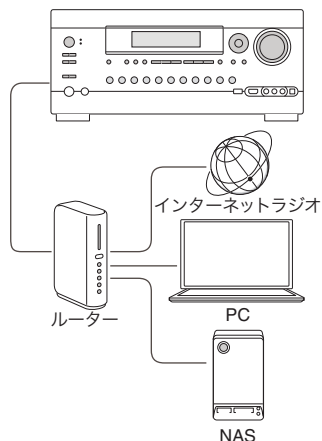
1. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。

2. カーソルで「My Favorites」を選び、Enterボタンを押して、登録されているインターネットラジオ局を表示させます。
3. カーソルで再生するラジオ局を選び、Enterボタンを押して再生を始めます。

■ 登録したラジオ局を削除する

1. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。

2. カーソルで「My Favorites」を選び、Enterボタンを押して、登録されているインターネットラジオ局を表示させます。
3. 削除したいラジオ局をカーソルで選び、Menuボタンを押して、メニュー画面を表示させます。

4. カーソルで「My Favoritesから削除」を選び、Enterボタンを押すと、確認画面が表示されます。
5. カーソルで「OK」を選び、Enterボタンを押すと、ラジオ局が削除されます。
   - 「Back」を選んだ場合は、ひとつ前の画面に戻ります。
   - ラジオ局は「WEB Setup」から削除することもできます。

DLNAで音楽を再生する

DLNAの概要

DLNA(Digital Living Network Alliance)とは、ホームネットワークを使って、AV機器やPCなどを相互に連携して利用するための技術仕様を策定する業界団体、またその仕様自体を指します。本機では、DLNAでPCやNAS(ネットワークに接続されたハードディスク)に保存された音楽ファイルをストリーミング再生して楽しむことができます。なお、本機とPCまたはNASは同じルーターに接続する必要があります。

- DLNAサーバー機能を持ったNASまたは、Windows Media® Player 11や12などのDLNAサーバー機能を備えたプレーヤーがインストールされたPCで再生できます。Windows Media® Player 11または12は、ストリーミング再生をするための事前の設定が必要です。
- Windows Media® Player 12のリモート再生機能を使うと、PCを操作して、PCに保存された音楽ファイルを本機でストリーミング再生できます。

Windows Media® Playerの設定をする

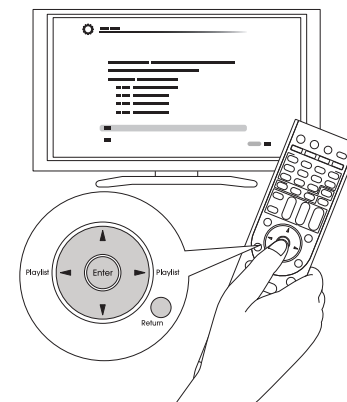
■ Windows Media® Player 11の場合

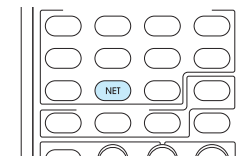
1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 11を開きます。
2. 「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選んで、ダイアログを開きます。
3. 「メディアを共有する」のチェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックして、対応機器を表示させます。
4. 本機を選び、「許可」をクリックします。
   - クリックすると、本機のアイコンにチェックが付きます。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。

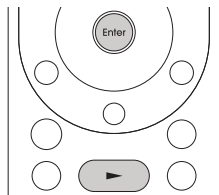
■ Windows Media® Player 12の場合

1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
2. 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選んで、ダイアログを開きます。
   - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順4に進んでください。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
4. 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。

DLNA再生

●**設定操作は**：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 再生する

1. 再生する音楽ファイルが保存されているサーバー(Windows Media® Player 11、Windows Media® Player 12、NASのいずれか)を起動します。
2. リモコンのNETボタンを押して、NET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。「NET」が点滅する場合は、ネットワークが正しく接続されていません。イーサネットケーブルの接続を確認してください。

3. カーソルで「DLNA」を選び、Enterボタンを押します。
4. カーソルで目的のサーバーを選び、Enterボタンを押して、項目のリスト画面を表示させます。
   - サーチ機能に対応していないサーバーでは、サーチ機能が働きません。
   - 本機では、サーバーにある写真や動画にはアクセスできません。
   - サーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。

5. カーソルで再生する音楽ファイルを選び、Enterボタンまたは►ボタンを押して再生を始めます。
   - 画面に「No Item.」と表示される場合は、ネットワークの接続が正しくされているか確認してください。

PCを操作してリモート再生する

ホームネットワーク内のPCを操作することにより、PCに保存された音楽ファイルを本機で再生できます。本機では、Windows Media® Player 12を介したリモート再生操作が行えます。Windows Media® Player 12で本機のリモート再生機能を使用するには、事前に設定が必要です。

- DLNAに対応したコントローラー機器(Androidのアプリなど)を使うと、コントローラー機器からWindows Media® Player 12に保存されている音楽ファイルを選び、本機でリモート再生できます。コントローラー機器を使ったリモート再生については、コントローラー機器の取扱説明書をご参照ください。

■ PCの設定

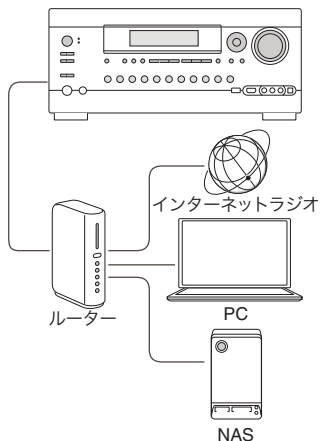
1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
2. 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選び、ダイアログを開きます。
   - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順4に進んでください。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
4. 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
6. 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることを確認します。

■ リモート再生する

1. 本機の電源を入れます。
2. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
3. Windows Media® Player 12で再生する音楽ファイルを選び、右クリックします。
   - 別のサーバー内の音楽ファイルをリモート再生する場合は、「その他のライブラリ」から目的のサーバーを開き、再生する音楽ファイルを選びます。
4. 「リモート再生」から本機を選び、Windows Media® Player 12の「リモート再生」ウィンドウを開いて、本機で再生を始めます。
   - リモート再生中の操作は、PCの「リモート再生」ウィンドウで行います。再生画面はHDMI接続されたテレビに表示されます。Windows® 8をお使いの場合は、「Play to」をクリックしてから本機を選びます。
5. 「リモート再生」ウィンドウの音量バーで、音量を調節します。
   - リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。
   - 本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。
   - 以下のいずれかの場合、本機はリモート再生できません。
     – ネットワークサービスを使っている
     – USBストレージの音楽ファイルを再生している
     – 本機で初めてNET入力切換を選んだときにテレビに表示される「免責事項」の画面で、「同意する」を選んでいない

共有フォルダの曲を再生する

共有フォルダの概要

共有フォルダとは、PCやNAS(ネットワークに接続されたハードディスク)などのネットワーク機器内に他のユーザからも参照できるように設定されたフォルダを指します。本機では、同じネットワークに接続されたPCやNASの共有フォルダ内の音楽ファイルを再生することができます。共有フォルダの曲を再生するには、事前にWindows® 8またはWindows® 7で設定が必要です。なお、本機とPCまたはNASは同じルータに接続する必要があります。

- PCでは、事前に共有オプションの設定と、PC内で共有フォルダを作成しておく必要があります。
- NASの設定や共有フォルダの作成方法は、NASの取扱説明書をご覧ください。

PCの設定をする

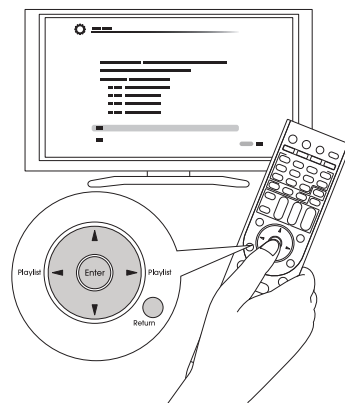
■ 共有オプションの設定をする

1. 「コントロールパネル」の「ホームグループと共有に関するオプションの選択」を選びます。
   - メニューが表示されない場合、「表示方法」が「カテゴリ」になっているか確認してください。
2. 「共有の詳細設定の変更」を選びます。
3. 「ホームまたは社内」で、以下のラジオボタンを選んでいるか確認します。
   「ネットワーク探索を有効にする」
   「ファイルとプリンターの共有を有効にする」
   「共有を有効にしてネットワークアクセスがある場合はパブリック フォルダ内のファイルを読み書きできるようにする」
   「パスワード保護の共有を無効にする」
4. 「変更の保存」を選び、確認画面で「OK」をクリックします。

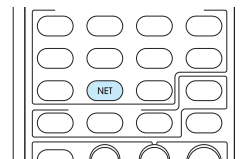
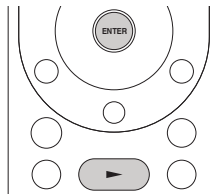
■ 共有フォルダを作成する

1. 共有するフォルダを選び、右クリックします。
2. 「プロパティ」を選びます。
3. 「共有」タブから「詳細な共有」を選びます。
4. 「このフォルダーを共有する」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。
5. 「ネットワークのファイルとフォルダーの共有」から「共有」を選びます。
6. プルダウンメニューから「Everyone」を選び、「追加」をクリックしてから「共有」をクリックします。
   - 共有フォルダにユーザーとパスワードを設定するには、「共有」タブの「詳細な共有」で「アクセス許可」を設定してください。
   - ワークグループが設定されているか確認してください。

共有フォルダ再生

●設定操作は：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。

■ 再生する

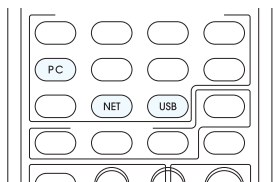
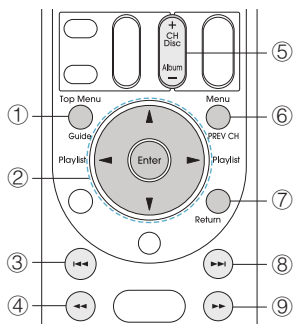
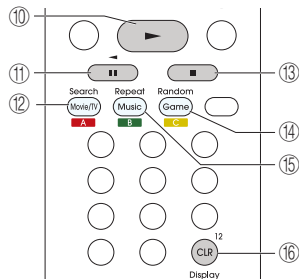
1. リモコンのNETボタンを押して、テレビにNET TOP画面を表示させます。
   - 表示部の「NET」が点灯します。「NET」が点滅する場合は、ネットワークが正しく接続されていません。イーサネットケーブルの接続を確認してください。

2. カーソルで「Home Media」を選び、Enterボタンを押します。
3. カーソルで目的のサーバーを選び、Enterボタンを押します。
   - お使いのPCのサーバー名は、PCのプロパティから確認できます。
4. カーソルで目的の共有フォルダを選び、Enterボタンを押します。
5. ユーザー名とパスワードを要求された場合、必要なアカウント情報を入力します。
   - 共有フォルダの作成時に設定したアカウント情報を入力してください。
   - 一度入力しておくとアカウント情報は保存され、次回からの入力が不要になります。

6. カーソルで再生する音楽ファイルを選び、Enterボタンまたは► ボタンを押して再生を始めます。

音楽ファイルをリモコンで操作する

リモコン操作の概要

本機のリモコンを使って、USBストレージ、インターネットラジオ、ネットワーク上のPCやNASに保存された音楽ファイルを再生したり、再生中の曲情報を閲覧したり、様々な操作を行うことができます。
- 再生するサービスやデバイスによって、動作するボタンが異なります。

リモコンボタンの働き

1. 入力ソースに応じてリモコンのInput Selectorボタン（PC、NET、USB）を押します。

2. 次の各ボタンの名称とはたらきを参照して、リモコンで操作します。

① **Top Menuボタン**：各メディアやサーバーのトップメニューを表示します。
② **▲/▼ボタン、Enterボタン**：項目を選択、決定します。
◄/►ボタン：リストが複数ページにわたる場合に、ページを移動します。
③ **⏮ボタン**：現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、2回押します。
④ **◄◄ボタン**：現在の曲を早戻しします。ただし、再生が終わる10秒前からは早戻しできません。
⑤ **+/-ボタン**：「My Favorites」に登録しているインターネットラジオのリストの上下移動に使用します。
⑥ **Menuボタン**：各インターネットラジオサービスのメニューを表示します。
⑦ **Returnボタン**：ひとつ前の画面に戻ります。
⑧ **►►I ボタン**：次の曲を再生します。
⑨ **►► ボタン**：現在の曲を早送りします。ただし、再生が終わる10秒前からは早送りできません。

⑩ **► ボタン**：再生を開始します。
⑪ **❚❚ボタン**：一時停止します。
⑫ **Searchボタン**：再生中に再生画面とリスト画面を切り換えます。
⑬ **■ボタン**：再生を停止します。
⑭ **Randomボタン**：ランダム再生します。
⑮ **Repeatボタン**：リピート再生します。このボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。
⑯ **Displayボタン**：再生中に曲情報を切り換えます。リスト画面を表示中にこのボタンを押すと再生画面に戻ります。

再生中に表示されるアイコン

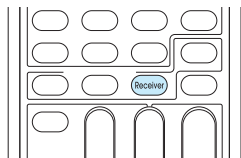
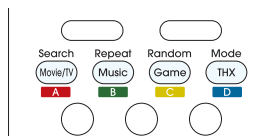
音楽ファイル再生中は、本体表示部にアイコンが表示されます。それぞれのアイコンの意味は、以下のとおりです。

：フォルダ
：曲
：再生
：一時停止中
：早送り
：早戻し
：アーティスト
：アルバム
：1トラックリピート
：フォルダリピート
：リピート
：シャッフル

リスニングモードの詳細

リスニングモードの選びかた

リスニングモードを使うと、入力ソースに最適な音響効果を選ぶことができます。

1. リモコンのReceiverボタンを押します。
   - 他の機器を操作するリモートモードに切り換わっていることがあるため、Receiverボタンを押してReceiverモード(本機を操作するモード)にしてから操作してください。

2. 4種類のリスニングモードの中からお好みに応じて、以下のボタンを押します。
   - 各ボタンを押すと、リスニングモードが切り換わります。実際に音を出しながら、モードを切り換えて、お好みのモードに合わせてください。

リスニングモードの種類と内容については、「リスニングモードの内容」をご参照ください。

■ Movie/TVボタン

映画やテレビを楽しむのに適したモードが選べます。

- 選択できるリスニングモード：
  AAC
  Action
  All Ch Stereo
  Direct
  Dolby Atmos
  Dolby D (Dolby Digital)
  Dolby D+ (Dolby Digital Plus)
  Dolby Surround
  Dolby TrueHD
  DSD
  DTS
  DTS 96/24
  DTS Express
  DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution Audio)
  DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)
  DTS Neo:X Cinema＋THX Cinema
  ES Discrete (DTS-ES Discrete)
  ES Matrix (DTS-ES Matrix)
  Full Mono
  Mono
  Multichannel
  Neo:X Cinema
  Sports
  Stage
  T-D (Theater-Dimensional)
  THX Cinema
  THX U2 Cinema (THX Ultra2 Cinema)
  THX Surr EX (THX Surround EX)
  TV Logic

■ Musicボタン

音楽を楽しむのに適したモードが選べます。

- 選択できるリスニングモード：
  AAC
  All Ch Stereo
  Direct
  Dolby Atmos
  Dolby D (Dolby Digital)
  Dolby D+ (Dolby Digital Plus)
  Dolby Surround
  Dolby TrueHD
  DSD
  DTS
  DTS 96/24
  DTS Express
  DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution Audio)
  DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)
  DTS Neo:X Music＋THX Music
  ES Discrete (DTS-ES Discrete)
  ES Matrix (DTS-ES Matrix)
  Full Mono
  Multichannel
  Music
  Neo:X Music
  Orchestra
  Stereo
  Studio-Mix
  THX Music
  THX U2 Music (THX Ultra2 Music)
  Unplugged

■ Gameボタン

ゲームを楽しむのに適したモードが選べます。

- 選択できるリスニングモード：
  AAC
  All Ch Stereo
  Direct
  Dolby Atmos
  Dolby D (Dolby Digital)
  Dolby D+ (Dolby Digital Plus)
  Dolby Surround
  Dolby TrueHD
  DSD
  DTS
  DTS 96/24
  DTS Express
  DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution Audio)
  DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)
  DTS Neo:X Game＋THX Games
  ES Discrete (DTS-ES Discrete)
  ES Matrix (DTS-ES Matrix)
  Full Mono
  Neo:X Game
  Game-Action
  Game-Rock

Game-RPG
Game-Sports
Multichannel
T-D (Theater-Dimensional)
THX Games
THX U2 Games (THX Ultra2 Games)

■ THXボタン

THX関連のリスニングモードが選べます。
- 選択できるリスニングモード：
  DTS Neo:X Cinema＋THX Cinema
  DTS Neo:X Music＋THX Music
  DTS Neo:X Game＋THX Games
  THX Cinema
  THX Music
  THX Games
  THX U2 Cinema (THX Ultra2 Cinema)
  THX U2 Games (THX Ultra2 Games)
  THX U2 Music (THX Ultra2 Music)
  THX Surr EX (THX Surround EX)

リスニングモードの内容

入力信号のチャンネル数や、設置しているスピーカー構成によって選択できるリスニングモードが異なります。なお、ヘッドホン接続時に選べるリスニングモードは、Mono、Direct、Stereoのみです。

アルファベット（ABC）順

■ AAC

AACソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch
- 地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースの再生時に選んでください。

■ Action

アニメ/特撮系のテレビ番組を観るのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定しておくと、このリスニングモードを選択できます。また2.1ch、3.1chのスピーカー構成でもお楽しみいただけます。

■ All Ch Stereo

BGMとして音楽を流すときに適したモードです。フロントだけでなくサラウンドからもステレオ音声を再生し、ステレオイメージを作ります。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Direct

入力された信号がそのまま再生されるモードです。たとえば音楽CDの2ch信号が入力されればステレオで、Dolby Digital信号が入力されればそのチャンネル数に応じた音場で再生されます。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Dolby Atmos

映画館でドルビーアトモスが表現している音響の定位感と臨場感をホームシアターシステムでも再現することができます。Dolby Atmosは汎用性と拡張性の高い「オブジェクト」を使ったミキシングを行うことで、独立した音響要素を画面上の映像に正確に連動するように音を配置し「動き」のある音響効果を再現します。前後左右だけではなく、頭上を含めた上下方向への音響の拡がりを可能にし、音を3次元の空間で表現することができます。
- サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーまたはワイドスピーカーの設置が必要です。
- 入力フォーマットがDolby Atmosではない場合、このリスニングモードで音声を再生することはできません。

■ Dolby D

Dolby Digitalソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ Dolby D+

Dolby Digital Plusソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。
- ブルーレイディスクを3.1ch再生または5.1ch再生する場合は、Dolby Digitalになります。

■ Dolby Surround

2チャンネルや5.1チャンネル、7.1チャンネルのソースをご使用のスピーカー構成に合わせて再生できる高度な次世代サラウンド技術です。従来のスピーカー配置に加え、天井埋め込み型スピーカーやDolbyのスピーカー技術を採用したDolby Atmos用の再生システムにも対応しています。
- 入力信号のチャンネル数：ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Dolby TrueHD

Dolby TrueHDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DSD

DSDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch
- 本機はHDMI入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCM出力に設定した方がよい音声を得られる場合があります。その場合は、プレーヤー側の設定をPCM出力にしてください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側の出力設定をDSDにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS

DTSソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数 : 5.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS 96/24

DTS 96/24ソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。96kHzのサンプリングレートと24ビットの解像度を使ってきめ細やかな再現性を実現します。
- 入力信号のチャンネル数 : 5.1ch
- 本機の設定によってはDTSになります。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS Express

DTS Expressソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数 : 5.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS-HD HR

DTS-HD High Resolution Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数 : 5.1ch、7.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS-HD MSTR

DTS-HD Master Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数 : 5.1ch、7.1ch
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS Neo:X

さまざまな入力ソースを最大11チャンネルまで拡張することができます。このモードは、フロントハイ/フロントワイドスピーカーを追加することにより半球状の音場空間を作り出し、自然で臨場感と広がりのあるサラウンド音声をお楽しみいただけます。
- DTS Neo:Xリスニングモードは、入力信号が192kHzまたはDolby TrueHDの場合は選択できません。

- **Neo:X Cinema** : 映画を楽しんでいるときに適したモードです。
  - 入力信号のチャンネル数 : ステレオ、5.1ch、7.1ch
- **Neo:X Music** : 音楽を楽しんでいるときに適したモードです。
  - 入力信号のチャンネル数 : ステレオ、5.1ch、7.1ch
- **Neo:X Game** : ゲームを楽しんでいるときに適したモードです。
  - 入力信号のチャンネル数 : ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ ES Discrete

サラウンドバックチャンネルを利用して、6.1または7.1チャンネルの再生を実現するDTS-ES Discrete ソース用のモードです。完全に独立した7つのチャンネルによって、空間イメージの向上と360度の音像定位が実現し、サラウンドチャンネル間を飛び交うようなサウンドを再現します。
- 入力信号のチャンネル数 : 6.1ch、7.1ch
- サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。
- DTS ESロゴのついたDVD、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使ったソフトで選んでください。
- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合はDTSになります。

■ ES Matrix

マトリックスエンコードされたバックチャンネルを利用して、6.1または7.1チャンネルの再生を実現するDTS-ES マトリックスサウンドトラック用のモードです。
- 入力信号のチャンネル数 : 6.1ch、7.1ch
- サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。
- DTS ESロゴのついたCD、DVD、LDなど、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使ったソフトで選んでください。
- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合はDTSになります。

■ Full Mono

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されるモードです。どの場所にいても同じ音場イメージで音楽を聴くことができます。
- 入力信号のチャンネル数 : モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Game-Action

アクションゲームを楽しむのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数 : モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Game-Rock

ロックゲームを楽しむのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数 : モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Game-RPG

ロールプレイングゲームを楽しむのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Game-Sports

スポーツゲームを楽しむのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Mono

モノラル信号で収録された古い映画の再生や、2言語が記録されているソースを左右チャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Multichannel

マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。
- 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch

■ Music

- 音楽系のテレビ番組を観るのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定しておくと、このリスニングモードを選択できます。また2.1ch、3.1chのスピーカー構成でもお楽しみいただけます。

■ Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。サラウンド感を強調して、音声イメージが全体に広がる大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Sports

- スポーツ系のテレビ番組を観るのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定しておくと、このリスニングモードを選択できます。また2.1ch、3.1chのスピーカー構成でもお楽しみいただけます。

■ Stage

- 演劇/ドラマ系のテレビ番組を観るのに適したモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定しておくと、このリスニングモードを選択できます。また2.1ch、3.1chのスピーカー構成でもお楽しみいただけます。

■ Stereo

左右フロントスピーカー/サブウーファーから音声が出力されるモードです。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch

■ Studio-Mix

ロック、ポピュラーなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドが楽しめます。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ T-D

サラウンドスピーカーを設置しなくてもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生が楽しめるモードです。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって効果を実現しています。
- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- 効果が得られない場合がありますので、できるだけ反射音の少ない環境での使用をおすすめします。

■ THX

ルーカスフィルム（Lucasfilm）社が提唱する劇場用音響の品質規格です。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など、厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。
- THXモードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた2チャンネルソースやマルチチャンネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。

－ **DTS Neo:X Cinema＋THX Cinema**：DTS Neo:XとTHX Cinemaを組み合わせたモードです。表示部に「Neo:X」と「THX」が点灯します
  - 入力信号のチャンネル数：ステレオ、5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。7.2ch以上で再生する場合、サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。

－ **DTS Neo:X Music＋THX Music**：DTS Neo:XとTHX Musicを組み合わせたモードです。表示部に「Neo:X」と「THX」が点灯します。
  - 入力信号のチャンネル数：ステレオ、5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。7.2ch以上で再生する場合、サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。

- **DTS Neo:X Game＋THX Games**：DTS Neo:XとTHX Gamesを組み合わせたモードです。表示部に「Neo:X」と「THX」が点灯します。
  - 入力信号のチャンネル数：ステレオ、5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。7.2ch以上で再生する場合、サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- **THX Cinema**：このモードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画などのサウンドトラックを、ホームシアター環境で再生するためのモードです。このモードでは、THX Loudnessが劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ・デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- **THX Games**：このモードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合、映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境のためのモードです。THX Loudness Plusがゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- **THX Music**：このモードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plusが音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch、7.1ch
  - サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- **THX U2 Cinema**：5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するよう、サラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch
  - サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- **THX U2 Music**：このモードは、5.1チャンネルで収録された音楽ソースを、7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch
  - サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- **THX U2 Games**：このモードは、5.1チャンネルで収録されたゲームソースを、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch
  - サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
- **THX Surr EX**：ドルビーラボラトリーズ社とTHX社で共同開発された、ホームシアター用フォーマットです。Dolby Digital EXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。
  - 入力信号のチャンネル数：5.1ch
  - サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。

■ TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。すべてのサラウンド音声を強調して会話音声を明瞭にすることにより、局のスタジオにいるような臨場感が楽しめます。

- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、ステージの前で聴いているようなサウンドが楽しめます。

- 入力信号のチャンネル数：モノラル、ステレオ、5.1ch、7.1ch
- サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- セットアップメニューの「ジャンル連動」-「自動」に設定すると、2ch、3chのスピーカー構成も対応になります。

■ 参考

ダイアログノーマライゼーション機能について

ダイアログノーマライゼーション（DialogNorm）は、Dolby Digitalの機能のひとつで、Dolby Digital、Dolby Digital PlusまたはDolby TrueHDのコンテンツ間における平均音量レベルを一定に保つために用いられ、ユーザー、ソフトごとに音量を調節する必要がありません。Dolby Digital、Dolby Digital PlusまたはDolby TrueHDで収録されたソフトを再生すると、本機の表示部に「DialogNorm：X dB」（Xは数値）と表示される場合があります。この表示は、各ソフトの音量レベルがTHXの基準レベルとどのような関係にあるのかを示しています。収録されたソフトを劇場レベルで再生したい場合は、音量の調整を行います。たとえば、表示部に「DialogNorm：+4 dB」と表示された場合、再生中のソフトがTHX基準レベルのプラス4dBで記録されていることを意味します。THX基準レベルで再生したい場合は、音量を4dB下げてください。ただし、再生音量が事前に設定された劇場とは違い、本機ではお好みの音量設定に調節することができます。

THX Cinema Processing機能について

THXはルーカスフィルム（Lucasfilm）社が提唱する劇場用音響の品質規格で、映画製作者のニュアンスを劇場やホームシアターで忠実に伝えようと考案されました。映画のサウンドトラックはダビングステージと呼ばれる特別な映画館で、同じような装置および環境の映画館で再生されることを目的としてミキシングされます。同じサウンドトラックがブルーレイディスクやDVDなどに録音されますが、ホームシアター環境に適するように変更されていません。THXの技術者はホームシアターで発生する音色および空間的な差異を最小にすることで、映画館でのサウンドを正確にホームシアターで再現できる技術を開発し、特許をとりました。本機では、THX表示が点灯している時は、THX機能が自動的にCinemaモードに追加されます。（例：THX Cinema, THX Surround EX）

ティンバー・マッチング機能について

人の耳は、音のくる方向によって音に対する知覚が変わります。映画館では多数のサラウンドスピーカーを使っているので音に包まれますが、ホームシアターでは2台のサラウンドスピーカーしかありません。Timbre Matching機能はサラウンドスピーカーに送られる信号にフィルターをかけ、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの音色特性を合わせることにより、フロント

スピーカーからサラウンドスピーカーへの音の動きをスムーズにします。

アダプティブ・デコリレーション機能について
映画館では多数のサラウンドスピーカーによって音に包まれる体験ができますが、ホームシアターでは通常2台のサラウンドスピーカーしかありません。2台のサラウンドスピーカーでは音はヘッドホンで聴くように聞こえ、音の広がり、および音に包まれることはできません。サラウンドスピーカーからの音はサラウンドスピーカー間の中間位置から離れると、近くのスピーカーの音に吸収されてしまい聴き分けることができなくなります。Adaptive Decorrelationは他のサラウンドチャンネルの音との時間軸と位相を少し変化させます。これにより聴く位置が広がり、2台のサラウンドスピーカーで映画館と同じような音の広がりを楽しめます。

ASA(Advanced Speaker Array)機能について
ASAは横と後方、それぞれ2箇所のサラウンドスピーカーの音を処理することでより拡がり感のあるサラウンドサウンド体験ができるTHXの特許技術です。8台のスピーカー出力(左フロント、センター、右フロント、右サラウンド、右サラウンドバック、左サラウンドバック、左サラウンド、サブウーファー)にホームシアターを設定する時、必ずTHXオーディオ設定の画面 で該当するサラウンドバックスピーカーの間隔を選んでください。この操作でサラウンドサウンド環境は再度、最適化されます。ASAはTHX Ultra2 Cinema、THX Ultra2 Music、THX Ultra2 Gamesの3つのモードで作動します。

入力フォーマットを確かめる

入力信号の音声フォーマットを確かめることができます。再生機器の音声が入力している状態で、リモコンのDisplayボタンをくり返し押すと本体表示部の情報が切り換わります。フォーマットの表示で「Dolby D 5.1」が表示された場合は、ドルビーデジタル5.1chの信号が入力していることを示します。

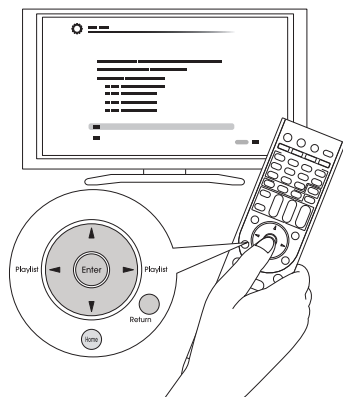
- 入力信号が「Dolby Atmos」フォーマットの場合は、チャンネル数は表示されません。

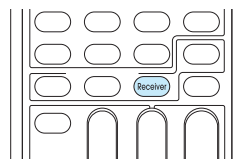
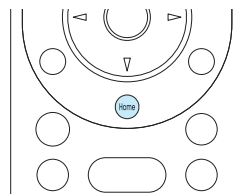
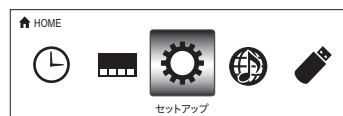
```
DTS-HDMSTR 5.1
   fs:  96 kHz
```

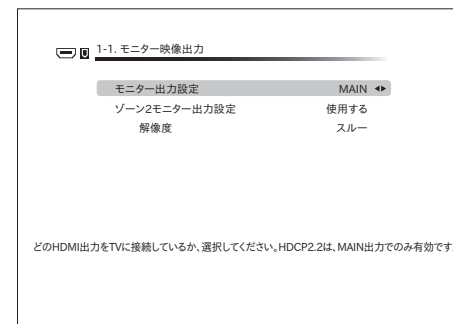
応用的な設定

設定方法

本機は、入力端子と入力切換ボタンの割り当ての変更や、スピーカーの詳細な設定の変更など、本機をより深くお楽しみいただくための応用的な設定を行う機能を装備しています。この設定は、HOMEメニューの「セットアップ」で行ってください。

●**設定操作は**：テレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。操作画面を表示するためにはテレビとHDMI接続することが必要です。リモコンのカーソルで内容を選び、Enterボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはReturnボタンを押します。HOMEメニューに戻るには、Homeボタンを押します。

■ 操作する

1. リモコンのReceiverボタンを押します。
   - 他の機器を操作するリモートモードに切り換わっていることがあるため、Receiverボタンを押してReceiverモード（本機を操作するモード）にしてから操作してください。

2. Homeボタンを押して、HOMEメニューを表示させます。

3. カーソル◄/►で「セットアップ」を選び、Enterボタンを押します。

4. カーソル▲/▼で目的のメニューを選び、Enterボタンを押します。

5. カーソル▲/▼/◄/►で目的の項目を選び、設定します。
   - 設定項目で「ENTER」と表示された場合はEnterボタンを押してください。

設定を終了（保存）するときは：Homeボタンを押して終了させてください。

1. 入力/出力端子の割り当て

モニター映像出力

本機に入力された映像入力信号をHDMI OUT端子からテレビに出力する際に、ご使用のテレビの解像度にあわせて出力解像度を本機で変換することができます。

設定項目	初期値	設定内容
モニター出力設定	MAIN	テレビを接続するHDMI端子を選びます。 「MAIN」：テレビをHDMI OUT MAIN端子に接続する場合 「SUB」：テレビをHDMI OUT SUB端子に接続する場合 「MAIN＋SUB」：MAINとSUB端子両方に接続する場合 • コンポジット／コンポーネント映像入力端子、PC IN端子に入力された映像信号はHDMI信号に変換してHDMI OUT端子から出力されます。 • 「MAIN」、「SUB」それぞれ個別に「解像度」の設定を行うことができます。 • HDCP2.2に対応しているHDMI端子は、HDMI IN 3およびHDMI OUT MAINです。
ゾーン2モニター出力設定	使用する	HDMI OUT ZONE2端子に接続しているゾーン2のテレビに出力する場合の設定です。 「使用する」：この機能を有効にする場合 「使用しない」：この機能を無効にする場合
解像度	スルー	HDMI出力端子の出力解像度を指定します。お使いのテレビで対応している解像度にあわせて、本機の画像解像度を変換します。 「スルー」：入力信号の解像度と同じ解像度のまま出力 「自動」：テレビに対応した解像度に合わせて自動で変換 「480p」、「720p」、「1680×720p」、「1080i」、「1080p」、「2560×1080p」：お好みの出力解像度を選択 「4K」：1080pの約4倍の高解像度で出力（接続しているテレビの対応解像度により、3840×2160または4096×2160ピクセルで出力） 「入力ソース」：「4.入力ソースの設定」の「画質調整」-「解像度」で設定した解像度で出力 • 「1080p」を選んだ場合、1080p/24の解像度で入力があったときはそのままの解像度で出力されます。 • 選択した解像度にモニターが対応していない場合、入力信号と同じ解像度のまま出力されます。 • 「4K」を選んだ場合、お使いのテレビによっては映像信号が出力されないことがあります。詳しくは、「困ったときは」の「HDMI OUT MAIN/SUBの対応解像度」をご参照ください。 • 「モニター出力設定」を「MAIN＋SUB」にした場合、「スルー」または「自動」のみ設定できます。 • 設定操作中に、それぞれの設定値の効果をテレビの映像で確認することができます。設定値をカーソルで選んで、Enterボタンを押してください。映像が表示されなくなった場合は、Returnボタンを押してください。（ただし、「NET」、「USB」入力切換を選択時は除く）

HDMI入力

各入力切換ボタンに割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	HDMI 1	「HDMI 1」～「HDMI 7」: BD/DVDボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
CBL/SAT	HDMI 2	「HDMI 1」～「HDMI 7」: CBL/SATボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
STB/DVR	HDMI 3 (HDCP 2.2)	「HDMI 1」～「HDMI 7」: STB/DVRボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
GAME	HDMI 4	「HDMI 1」～「HDMI 7」: Gameボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
PC	HDMI 5	「HDMI 1」～「HDMI 7」: PCボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
AUX	Front/MHL	この設定を変更することはできません。
TV/CD	-----	「HDMI 1」～「HDMI 7」: TV/CDボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。
PHONO	-----	「HDMI 1」～「HDMI 7」: Phonoボタンに任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。他の入力切換ボタンに設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当するボタンの設定を「-----」に変更すると選べるようになります。

コンポーネント映像入力

BD/DVDボタン、CBL/SATボタンには、あらかじめCOMPONENT VIDEO IN端子に接続した機器を再生する割り当て設定がされています。この割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	COMPONENT 1	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: BD/DVDボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
CBL/SAT	COMPONENT 2	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: CBL/SATボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
STB/DVR	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: STB/DVRボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
GAME	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: Gameボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
PC	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: PCボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
AUX	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: AUXボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
TV/CD	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: TV/CDボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。
PHONO	-----	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: Phonoボタンに任意のCOMPONENT VIDEO IN端子を割り当てます。

- 「モニター映像出力」-「モニター出力設定」が「MAIN」または「MAIN+SUB」で、「解像度」が「スルー」の場合、コンポーネント信号は、入力された解像度がそのまま出力されます。その解像度に対応していないテレビでは映像は表示されません。

コンポジット映像入力

各入力切換ボタンに割り当てられている、COMPOSITE VIDEO IN V1〜3端子の割り当て設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	-----	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: BD/DVDボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
CBL/SAT	VIDEO 1	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: CBL/SATボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
STB/DVR	VIDEO 2	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: STB/DVRボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
GAME	VIDEO 3	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: Gameボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
PC	PC IN	この設定を変更することはできません。
AUX	フロント	この設定を変更することはできません。
TV/CD	-----	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: TV/CDボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
PHONO	-----	「VIDEO 1」〜「VIDEO 3」: Phonoボタンに任意のCOMPOSITE VIDEO IN V端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。

- 「モニター映像出力」-「モニター出力設定」が「MAIN」または「MAIN＋SUB」で、「解像度」が「スルー」の場合、コンポジット信号は、入力された解像度がそのまま出力されます。その解像度に対応していないテレビでは映像は表示されません。

デジタル音声入力

各入力切換ボタンに割り当てられている、DIGITAL IN COAXIAL 1〜3/OPTICAL 1〜2端子の割り当て設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	COAXIAL 1(同軸入力)	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: BD/DVDボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
CBL/SAT	COAXIAL 2(同軸入力)	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: CBL/SATボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
STB/DVR	COAXIAL 3(同軸入力)	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: STB/DVRボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
GAME	OPTICAL 1(光入力)	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: Gameボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
PC	-----	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: PCボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。
AUX	フロント	この設定を変更することはできません。
TV/CD	OPTICAL 2(光入力)	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」: TV/CDボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
PHONO	-----	「COAXIAL 1(同軸入力)」、「COAXIAL 2(同軸入力)」、「COAXIAL 3(同軸入力)」、「OPTICAL 1(光入力)」、「OPTICAL 2(光入力)」：Phonoボタンに任意のDIGITAL IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。

- デジタル入力から入力されるPCM信号（ステレオ／モノラル）のサンプリングレートは、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz/16ビット、20ビット、24ビットです。

2. スピーカー設定

サブウーファーの有無やクロスオーバー周波数の数値など、各スピーカーの設定を変更することができます。自動スピーカー設定を行った場合は、自動で設定されています。
また、ヘッドホンを接続しているときやテレビのスピーカーから音声を出力しているときは、この設定を選択することはできません。

スピーカーセッティング

フロントスピーカーの接続方法やハイトスピーカーのタイプを変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
フロントスピーカータイプ	通常	フロントスピーカーの接続方法を選びます。 「通常」：フロントスピーカーを通常の方法で接続している場合 「バイアンプ」：フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合
ハイト1スピーカータイプ	使用しない	HEIGHT 1端子に接続しているスピーカーのタイプを設定します。 接続しているスピーカーのタイプや配置に合わせて「使用しない」、「フロント ハイ」、「トップフロント」、「トップミドル」、「Dolby Enabled Speaker (フロント)」、「Dolby Enabled Speaker (サラウンド)」、「Dolby Enabled Speaker (バック)」から選択してください。 ● 「フロントスピーカータイプ」を「バイアンプ」に設定している場合、この設定は「使用しない」に固定されます。 ● 「Dolby Enabled Speaker (サラウンド)」は、「サラウンド」の設定が「無し」のときは選べません。 ● 「Dolby Enabled Speaker (バック)」は、「バック」の設定が「無し」または「バックチャンネル」が「1ch」のときは選べません。
ハイト2スピーカータイプ	使用しない	HEIGHT 2端子に接続しているスピーカーのタイプを設定します。 また、「フロントスピーカータイプ」の設定値によって、選択できる項目が変わります。接続しているスピーカーのタイプや配置、「フロントスピーカータイプ」の設定に合わせて以下から選択してください。 「フロントスピーカータイプ」を「通常」に設定している場合：「使用しない」、「トップミドル」、「トップ リア」、「リア ハイ」、「Dolby Enabled Speaker (サラウンド)」、「Dolby Enabled Speaker (バック)」から選択してください。 「フロントスピーカータイプ」を「バイアンプ」に設定している場合：「使用しない」、「フロント ハイ」、「トップフロント」、「トップミドル」、「Dolby Enabled Speaker (フロント)」、「Dolby Enabled Speaker（サラウンド）」、「Dolby Enabled Speaker（バック）」から選択してください。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は「使用しない」に固定されます。 – 「フロントスピーカータイプ」を「通常」に設定している、かつ「ハイト1スピーカータイプ」を「使用しない」に設定している – 「ハイト1スピーカータイプ」を「トップミドル」、「Dolby Enabled Speaker (サラウンド)」または「Dolby Enabled Speaker (バック)」に設定している ● 「Dolby Enabled Speaker (サラウンド)」は、「サラウンド」の設定が「無し」のときは選べません。 ● 「Dolby Enabled Speaker (バック)」は、「バック」の設定が「無し」または「バックチャンネル」が「1ch」のときは選べません。

スピーカー詳細設定

各スピーカーの有無やクロスオーバー周波数など、各スピーカーの設定を変更することができます。自動スピーカー設定を行った場合は、自動で設定されています。この設定を行っているときは音声は出力されません。

設定項目	初期値	設定内容
サブウーファー	2ch	音声信号を出力するサブウーファー端子を設定します。 「1ch」: 音声信号をPRE OUT SW1端子またはPRE OUT SUBWOOFER 1端子からのみ出力する場合 「2ch」: 音声信号をPRE OUT SW1端子とPRE OUT SW2端子の両方、またはPRE OUT SUBWOOFER 1端子とPRE OUT SUBWOOFER 2端子の両方から出力する場合 「無し」: 音声信号をサブウーファー端子から出力しない場合
フロント	80Hz(THX)	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」〜「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」: 全帯域を出力します。 ● 「サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「フルレンジ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
センター	80Hz(THX)	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」〜「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」: 全帯域を出力します。 「無し」: 該当のスピーカーを接続していない場合 ● 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。
サラウンド	80Hz(THX)	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」〜「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」: 全帯域を出力します。 「無し」: 該当のスピーカーを接続していない場合 ● 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。 ● 「無し」は、「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」または「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」が「使用しない」に設定されているときのみ選択できます。
バック	80Hz(THX)	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」〜「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」: 全帯域を出力します。 「無し」: 該当のスピーカーを接続していない場合 ● 「サラウンド」の設定を「無し」にしている場合、この設定は「無し」に固定されます。 ● 「フルレンジ」は、「サラウンド」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。
バックチャンネル	2ch	接続したサラウンドバックスピーカーのチャンネル数を選びます。 「1ch」: 1台の場合(BACK L端子に接続してください) 「2ch」: 2台の場合 ● 「バック」の設定が「無し」のときは、この設定を変更できません。
ワイド	無し	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」〜「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」: 全帯域を出力します。 「無し」: 該当のスピーカーを接続していない場合 ● 以下のいずれかの場合、この設定は「無し」に固定されます。 – 「サラウンド」の設定を「無し」にしている – 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」を「バイアンプ」にしている – 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」以外にしている ● 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト1	無し	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」～「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」：全帯域を出力します。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は「無し」に固定されます。 ● 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」で、いずれかのタイプを選んだ場合、この設定の初期値として「80Hz(THX)」が設定されます。この設定で「無し」を選択することはできません。
ハイト2	無し	各チャンネルの音域を何Hzから出力するか、クロスオーバー周波数を「40Hz」～「200Hz」から選びます。 「フルレンジ」：全帯域を出力します。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は「無し」に固定されます。 ● 「フルレンジ」は、「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」で、いずれかのタイプを選んだ場合、この設定の初期値として「80Hz(THX)」が設定されます。この設定で「無し」を選択することはできません。
LFEローパスフィルタ	120Hz	LFE（低域効果音）信号の低域フィルターを設定し、設定値以下の周波数だけを通過させ、不要なノイズを消すことができます。低域フィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。設定できる各周波数は「80Hz」～「120Hz」です。 「オフ」：この機能を使用しない場合
サブウーファー位相	0°	視聴する音声や、視聴位置とサブウーファーとの距離によっては、サブウーファーの低音出力が弱く感じられる場合があります。そのような場合は、サブウーファーの位相を変更してください。位相設定は、音声を聴きながら、お好みの低音を視聴できる方に設定してください。 「0°」：サブウーファーの位相は反転しません。 「180°」：サブウーファーの位相が反転します。 ● 「サブウーファー」の設定が「無し」の場合、この設定は変更できません。
ダブルバス	-----	左右フロントスピーカー、センタースピーカーの低音をサブウーファーに送り、低音の出力を強調します。 「オン」：低音の出力を強調する場合 「オフ(THX)」：低音の出力を強調しない場合 ● 自動スピーカー設定を行っても、この機能は自動で設定されません。 ● 「サブウーファー」が「無し」、または「フロント」が「フルレンジ」に設定されているときのみ選択できます。

- THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、以下の設定をおすすめします。
  - クロスオーバー周波数の設定→「80Hz(THX)」
  - 「LFEローパスフィルタ」→「80Hz(THX)」
  - 「ダブルバス」→「オフ(THX)」

スピーカー距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。自動スピーカー設定を行った場合は自動で設定されています。

設定項目	初期値	設定内容
単位	メートル	設定時の距離の単位を設定します。 「メートル」：メートルで設定する場合（0.03m -9.00m : 0.03メートル単位） 「フィート」：フィートで設定する場合（0.1ft -30.0ft : 0.1フィート単位）
フロント左	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。

設定項目	初期値	設定内容
ワイド左	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
センター	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
ワイド右	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
フロント右	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンド右	2.10m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
バック右	2.10m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合、この項目は表示されません。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
バック左	2.10m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合、この項目は表示されません。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
バック	2.10m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● この項目は「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合にのみ表示されます。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
サラウンド左	2.10m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サブウーファー1	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」を「無し」に設定している場合、この設定は変更できません。
サブウーファー2	3.60m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」を「1ch」または「無し」に設定している場合、この設定は変更できません。
ハイト1左	2.70m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は変更できません。
ハイト1右	2.70m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は変更できません。
ハイト2右	2.70m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている – 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている
ハイト2左	2.70m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている – 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている

- 「スピーカー詳細設定」で「無し」にしたスピーカーの「スピーカー距離」は変更できません。

スピーカー音量レベル

各スピーカーからのテスト音を聴きながら、音量レベルを設定します。自動スピーカー設定を行った場合は、自動で設定されています。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
ワイド左	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
センター	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
ワイド右	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
フロント右	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンド右	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
バック右	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合、この項目は表示されません。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
バック左	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合、この項目は表示されません。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
バック	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● この項目は「スピーカー詳細設定」-「バック」を「無し」以外に設定し、かつ「バックチャンネル」を「1ch」に設定している場合にのみ表示されます。 ● 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている場合、この設定は変更できません。
サラウンド左	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サブウーファー1	0.0dB	「-15.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」を「無し」に設定している場合、この設定は変更できません。
サブウーファー2	0.0dB	「-15.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」を「1ch」または「無し」に設定している場合、この設定は変更できません。
ハイト1左	0.0dB	「-12.0dB」～「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は変更できません。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト1右	0.0dB	「-12.0dB」〜「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 「スピーカーセッティング」-「ハイト1スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている場合、この設定は変更できません。
ハイト2右	0.0dB	「-12.0dB」〜「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている – 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている
ハイト2左	0.0dB	「-12.0dB」〜「+12.0dB」から選びます(0.5dB単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカーセッティング」-「ハイト2スピーカータイプ」の設定を「使用しない」にしている – 「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の設定を「バイアンプ」にしている

- 以下のいずれかの場合、「スピーカー音量レベル」の設定は変更できません。
  - 「スピーカー詳細設定」で「無し」に設定したスピーカー
  - 消音の設定をしている
- 本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB(絶対値の場合は82)で出力されます。通常お聴きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。
- ハンドヘルドSPLメーターを使用している場合は、C特性および低速読みで測定された視聴位置で各スピーカーのレベルを75dBSPLに調整してください。

THXオーディオ設定

設定項目	初期値	設定内容
サラウンドバックスピーカー間距離	>1.2m	サラウンドバックスピーカーの間隔を以下の値から選びます。 「スピーカー距離」-「単位」の設定が「メートル」の場合:「<0.3m」、「0.3m-1.2m」、「>1.2m」から選びます。 「スピーカー距離」-「単位」の設定が「フィート」の場合:「<1ft」、「1ft-4ft」、「>4ft」から選びます。 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカー詳細設定」-「バック」の設定を「無し」にしている – 「スピーカー詳細設定」-「バックチャンネル」の設定で、「1ch」にしている
THX Ultra2/ Select2 Subwoofer	無し	THX認証のサブウーファーの接続の有無を設定します。 「有り」:THX認証のサブウーファーを接続している場合 「無し」:THX認証のサブウーファーを接続していない場合 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」の設定を「無し」にしている場合、この設定は変更できません。
BGC (Boundary Gain Compensation)	オフ	視聴室のレイアウト上、壁際など部屋の境界部で鑑賞している場合、低音が強調されるのを補正することができます。THX Ultra2 Plus搭載のレシーバーは、低音のバランスを調整する特徴をもっています。 「オン」:この機能を使用する場合 「オフ」:この機能を使用しない場合 ● 以下のいずれかの場合、この設定は変更できません。 – 「スピーカー詳細設定」-「サブウーファー」の設定を「無し」にしている – 「THX Ultra2/Select2 Subwoofer」の設定を「無し」にしている

設定項目	初期値	設定内容
Loudness Plus	オン	この設定を「オン」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。THXリスニングモードを選択しているときに利用できます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 **THX Loudness Plus** THX Loudness Plusは、THX Ultra2 Plus™およびTHX Select2 Plus™認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。 THX Loudness Plusを使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。ボリュームをリファレンスレベル(基準レベル)よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント(音質要素)が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。 THX Loudness Plusはボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。 このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。THX Loudness Plusは、どのTHXリスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発されたTHX Cinema、THX Music、THX Gamesのモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plusの設定が適切に適用されるように調整されています。

3. 音の設定・調整

多重音声／言語放送を聴くときの設定や、各リスニングモード再生時の音場の設定など、音に関する各種設定を行います。

多重音声/モノラル

設定項目	初期値	設定内容
多重音声 入力チャンネル	主	多重音声や多重言語の放送などを再生するときの音声や言語の種類を設定します。 「主」: 主音声のみが再生されます。 「副」: 副音声のみが再生されます。 「主/副」: 主音声と副音声が同時に再生されます。 ● 音声多重放送の場合、Displayボタンを押すと本体表示部に「1＋1」と表示されます。
モノラル 入力チャンネル	左＋右	2チャンネルで記録されたDolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号をMonoリスニングモードで再生する場合の入力チャンネルを設定します。 「左」: 左チャンネルの音声のみを再生します。 「右」: 右チャンネルの音声のみを再生します。 「左＋右」: 左右両チャンネルの音声を再生します。
モノラル 出力スピーカー	センター	Monoリスニングモード時にモノラル音声を出力するスピーカーを設定します。 「センター」: センタースピーカーから音声を出力する場合 「左/右」: 左右フロントスピーカーから音声を出力する場合 ● 「スピーカー詳細設定」-「センター」の設定を「無し」にしている場合、この設定は「左/右」に固定されます。

Dolby

Dolbyリスニングモード実行時の設定を行います。

設定項目	初期値	設定内容
Loudness Management	オン	Dolby TrueHD再生時に、小音量でもサラウンドが楽しめるレイトナイト機能を有効にします。 「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合
Center Spread	オフ	Dolby Surroundリスニングモードを再生する際の、フロント音場の広がりを調整します。 「オン」：左右に音を広げる場合 「オフ」：中央に音を集中させる場合 ● 「スピーカー詳細設定」-「センター」の設定を「無し」にしている場合、この設定は「オフ」に固定されます。

DTS

DTS Neo:X Musicリスニングモード時の設定を行います。

設定項目	初期値	設定内容
Neo:X Music Center Image	2	DTS Neo:X Musicリスニングモードで再生する際の、フロント音場の広がりを調整します。 「0」～「5」：設定値が小さいほどフロント音場が中央に寄り、大きいほど左右に広がります。

Theater-Dimensional

Theater-Dimensionalリスニングモード時の設定を行います。

設定項目	初期値	設定内容
リスニングアングル	広い	Theater-Dimensionalリスニングモードで再生する場合、スピーカーの設置角度（視聴位置から見た左と右のフロントスピーカーの間の角度）を設定します。 「狭い」：30°より狭い場合 「広い」：30°より広い場合

- スピーカーの設置角度は、「リスニングアングル」の設定で「狭い」を選んだ場合は20°、「広い」を選んだ場合は40°をおすすめします。

LFEレベル

Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD信号の低域効果（LFE）レベルが設定できます。

設定項目	初期値	設定内容
Dolby Digital/ Dolby Digital Plus	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。 ● この設定では、Dolby DigitalとDolby Digital PlusソースのLFEチャンネル音量を設定します。
DTS/DTS-HD Highresolution Audio	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。 ● この設定では、DTSとDTS-HD High ResolutionソースのLFEチャンネル音量を設定します。
AAC	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。
マルチチャンネルPCM	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。
Dolby TrueHD	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。
DTS-HD Master Audio	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。
DSD	0dB	各信号の低域効果（LFE）レベルを、「0dB」～「－∞dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎる場合は、「－20dB」または「－∞dB」を選んでください。 ● この設定では、DSD（Super Audio CD）ソースのLFEチャンネル音量を設定します。

Direct

Directリスニングモード時の設定を行います。

設定項目	初期値	設定内容
アナログサブウーファー	オフ	Directリスニングモードでの再生中に、サブウーファーから低域信号を出力する場合に設定します。 「オフ」: 出力しない場合 「オン」: 出力する場合 ● 「スピーカー詳細設定」-「サブウファー」の設定を「無し」にしている場合、この設定は変更できません。
DSD DACダイレクト	オフ	Directのリスニングモード選択時にDSD(Super Audio CD)音声信号をDSPで処理するかどうかを設定します。 「オフ」: DSD信号を DSPで処理する場合 「オン」: DSD信号を DSPで処理しない場合

4. 入力ソースの設定

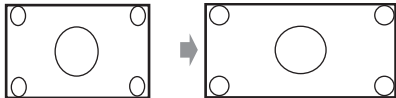
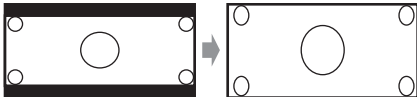
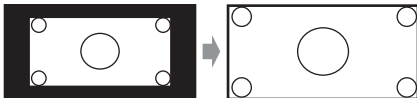
本機に接続した複数の機器間で、音量差の調整を行ったり、各入力切換の名前変更や画質の調整を行います。入力切換ボタンごとに設定します。任意の入力切換を選び、映像か音声を確認する場合は接続機器を再生してください。

AccuEQ Room Calibration

設定項目	初期値	設定内容
AccuEQ Room Calibration	オフ	自動スピーカー設定による音場補正効果の無効/有効を切り換えます。 「オン」: 有効にする場合 「オフ」: 無効にする場合 ● 以下の場合は、この設定は変更できません。 – 自動スピーカー設定を行っていない – ヘッドホンを接続している

インテリボリューム(機器間の音量差調整)

設定項目	初期値	設定内容
インテリボリューム	0dB	本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整です。「−12dB」~「+12dB」から選びます。他の機器と比べて音量が大きい場合は－の値を、小さい場合は＋の値で調整します。 ● この機能は、ゾーン2/ゾーン3では機能しません。

名前変更

各入力切換にわかりやすい名前を設定します。入力した名前が本体表示部に表示されます。

設定項目	初期値	設定内容
名前	入力切換名	1. カーソルで文字･記号を選び、Enterボタンを押します。 この操作をくり返して最大10文字まで入力します。 「Shift」: 大文字／小文字が切り換わります。(リモコンの＋10ボタンを押しても大文字／小文字が切り換わります) 「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。 「Back Space」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。 「Space」: 1文字分スペースが入ります。 ● リモコンのCLRボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 2. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、Enterボタンを押します。 入力した名前が保存されます。

- プリセットされた放送局に名前をつける場合は、リモコンのTunerボタンを押してAM/FMを選び、プリセット番号を選びます。
- 「NET」、「USB」の入力切換を選択時は、設定できません。

画質調整

画質を調整します。映像を見ながら調整するにはEnterボタンを押してください。元の画面に戻すにはReturnボタンを押してください。

設定項目	初期値	設定内容
ワイドモード	自動	画面の縦横比を設定します。 「自動」:入力信号とモニター映像出力設定に従って自動で設定します。 「4:3」: 「フル」: 「ズーム」: 「ワイドズーム」: ● 3Dや4Kの映像を入力している場合、この設定は「フル」になります。また、解像度によっては、設定内容が無効になり、自動的に「フル」に設定されることがあります。
ピクチャーモード	カスタム設定	画質を映画やゲームの画面に適した設定に変更できます。また、好みに応じて項目ごとに画質を調整することもできます。 「カスタム設定」:以下の「ゲームモード」〜「B コントラスト」までの項目を好みに応じて調整する場合 「ISF昼間設定」:部屋が明るい場合 「ISF夜間設定」:部屋が暗い場合 「Cinema」:映像ソースが映画の場合 「Game」:映像ソースがゲームの場合 「スタンダード」:解像度は変更するが、画質調整はしない場合 「バイパス」:解像度の変更も画質調整もしない場合 ● 「バイパス」に設定している場合は、OSD機能は使用できなくなります。 ● 本機はImaging Science Foundation (ISF)が設定した設定および校正基準を採用しています。ISFはビデオ性能を最適化するための業界基準をきめ細かく考案し、技術者や取付け作業員に対してこれらの基準を運用するための教育プログラムを実施し、本機から最適な画質を得ています。したがって、ISF認定の設置工事担当者が設定および校正作業を行うようにお勧めします。
ゲームモード	オフ	ゲームの画面に適した設定に変更します。また、ゲーム機などのビデオ信号に遅延が発生する場合に補正します。 「オン」:この機能を使用する場合 「オフ」:この機能を使用しない場合 ● 「オン」にすると遅延は改善しますが画質は劣化します。 ● 「解像度」の設定を「4K」にした場合、この設定は「オフ」になります。
フィルムモード	自動	映画の映像に適した設定に変更します。 「自動」:映画の映像に適した処理を行う場合 「ビデオ」:「フィルムモード」を適用せず、入力信号をビデオソースとして処理する場合

設定項目	初期値	設定内容
エッジ エンハンスメント	オフ	映像の輪郭の鋭さを調整します。「オフ」、「弱」、「中」、「強」から選びます。 • 「ゲームモード」の設定を「オン」にした場合、この設定は「オフ」になります。 • 出力映像の水平解像度が2,000本以上の場合、この設定は「オフ」になります。
ノイズ低減	オフ	画面のノイズを低減します。「オフ」、「弱」、「中」、「強」から選びます。 • 「ゲームモード」の設定を「オン」にした場合、この設定は「オフ」になります。
解像度	スルー	HDMI出力端子の出力解像度を調整します。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、画像解像度を変換します。 「スルー」：入力信号の解像度と同じ解像度のまま出力 「自動」：テレビが、再生可能な解像度に合わせて自動で変換 「480p」、「720p」、「1680×720p」、「1080i」、「1080p」、「2560×1080p」：お好みの出力解像度を選択 「4K」：1080pの約4倍の高解像度で出力（接続しているテレビの対応解像度により、3840×2160または4096×2160ピクセルで出力） • この項目は、「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「解像度」の設定で「入力ソース」を選択時にのみ選ぶことができます。 • 「4K」を選んだ場合、お使いのテレビによっては映像信号が出力されないことがあります。詳しくは、「困ったときは」の「HDMI OUT MAIN/SUBの対応解像度」をご覧ください。
明るさ	0	画面の明るさを調整します。「–50」～「+50」から選びます。
コントラスト	0	画面のコントラストを調整します。「–50」～「+50」から選びます。
色合い	0	画面の色合いを補正します。「–50」～「+50」から選びます。
彩度	0	画面の色の濃さを調整します。「–50」～「+50」から選びます。
色温度	通常	画面の色温度を設定します。「暖色」、「通常」、「寒色」から選びます。

設定項目	初期値	設定内容
ガンマ	0	入力された画像のR(赤)、G(緑)、B(青)色のデータ信号と、出力する色データ信号の相対関係を調整します。「–3」～「+3」から選びます。
R 明るさ	0	画面の赤の明るさを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。
R コントラスト	0	画面の赤のコントラストを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。
G 明るさ	0	画面の緑の明るさを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。
G コントラスト	0	画面の緑のコントラストを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。
B 明るさ	0	画面の青の明るさを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。
B コントラスト	0	画面の青のコントラストを調整します。 「–50」～「+50」から選びます。

- 「NET」、「USB」の入力切換を選択時は、「画質調整」の設定は変更できません。
- 「ゲームモード」～「B コントラスト」の設定をすべて初期値に戻したい場合は、リモコンのCLRボタンを押してください。

音声入力

音声入力に関する設定です。入力切換ボタンごとに設定します。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
音声入力	-	優先する入力ソースを選択します。 「ARC」: ARC対応テレビからの入力信号を優先する場合 • この項目は、「Audio Return Channel」の設定を「自動」にして、かつ「TV/CD」の入力切換を選択時にのみ選ぶことができます。 「HDMI」: HDMI端子の入力を優先する場合 • この項目は、設定する入力切換が「HDMI入力」の設定でHDMI IN端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 「COAXIAL(同軸入力)」: COAXIAL IN端子の入力を優先する場合 • この項目は、設定する入力切換が「デジタル音声入力」の設定でCOAXIAL端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 「OPTICAL(光入力)」: OPTICAL IN端子の入力を優先する場合 • この項目は、設定する入力切換が「デジタル音声入力」の設定でOPTICAL端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 「アナログ」: 入力信号に関わらず常にアナログ音声を出力する場合 「バランス入力」: バランス端子の入力を優先する場合
固定モード	オフ	「音声入力」の設定で「HDMI」、「COAXIAL(同軸入力)」、「OPTICAL(光入力)」を選んだ場合の入力信号を指定します。PCM信号やDTS信号再生中にノイズや曲間の頭切れが発生する場合に設定します。 「オフ」: デジタル信号が入力されていない場合やアナログ信号を再生する場合 「PCM」: PCM(マルチチャンネルPCMは除く)の入力信号に固定する場合 「DTS」: DTS(DTS-HDは除く)の入力信号に固定する場合 • 「音声入力」の設定を変更するたびにこの設定は「オフ」に戻ります。
バランス入力モード	ステレオ	「音声入力」設定で「バランス入力」を選んだ場合に設定します。入力ソースに合わせて項目を選択してください。 「ステレオ」: 入力ソースがステレオの場合 「Mono」: 入力ソースがモノラルの場合

- 「Phono」、「Tuner」、「NET」、「USB」の入力切換を選択時、またWHOLE HOUSE MODE機能を使用中は、この設定は変更できません。

5. リスニングモードプリセット

入力信号ごとにお好みのリスニングモードをあらかじめ設定しておくことができます。(たとえばブルーレイディスクのDolby TrueHD信号を再生時は、ストレートデコードで、常にそのままの音場で再生するなど)
入力切換の一覧が表示されるので、信号の種類、リスニングモードを設定してください。
再生中にもリスニングモードを切り換えることはできますが、スタンバイ状態にすると元の設定に戻ります。

設定項目	初期値	設定内容
アナログ/PCM	All Ch Stereo	CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
モノラル/多重音声信号	Full Mono	モノラル／多重音声信号で記録されたDolby Digital、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
2チャンネル信号	Dolby Surround	2チャンネルで記録されたDolby Digitalなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
Dolby D/Dolby D Plus/TrueHD	Dolby Surround	Dolby Digital、Dolby Digital PlusおよびDolby TrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
DTS/DTS-ES/DTS-HD	ストレートデコード	DTS形式やDTS-HD High Resolution形式のデジタル音声信号を再生するときのリスニングモードを設定します。ブルーレイなどのDTS-HD Master Audioソース用の既定のリスニングモードを指定します。
その他の音声フォーマット	Dolby Surround	HDMI IN端子から入力されたAAC、DVD-Audio、スーパーオーディオCDのDSD信号などを再生するときのリスニングモードを設定します。

- 選べるリスニングモードは入力信号により異なります。

- 「最終値」の設定を選ぶと、最後に選択したモードが常に選ばれます。
- 「Tuner」入力切換に設定できるモードは、「アナログ」のみです。
- 「NET」、「USB」入力切換に設定できるモードは、「デジタル」および「TrueHD」です。

6. その他

ボリューム設定

本機の音量に関する詳細設定です。

設定項目	初期値	設定内容
ボリューム表示	絶対値	ボリュームの表示方法を、絶対値または相対値に切り換えることができます。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。 「絶対値」:「0.5」～「99.5」など絶対値で表示します。 「相対値(THX)」:「－81.5dB」、「+18.0dB」など相対値で表示します。 • 絶対値の音量を「82.0」に設定すると、表示部に「82.0Ref」が表示され、「THX」表示が点滅します。
ミュート時音量レベル	－∞dB	ミューティング時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。 「－∞dB」、「－50dB」～「－10dB」の範囲で設定できます。(10dB単位)
最大ボリューム値	オフ	音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「50」～「99」から選びます。
電源オン時ボリューム値	最終値	電源を入れたときの音量を設定します。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)「最小」、「1」～「99」、「最大」から選びます。 • この設定値は、「最大ボリューム値」の設定の値より高く設定できません。
ヘッドホン音量レベル	0dB	スピーカーとヘッドホンの音量差を調整します。「－12dB」～「+12dB」から選びます。

OSD設定

設定メニューやボリュームなどの操作時に、テレビに表示されるOSD機能に関する設定です。

設定項目	初期値	設定内容
オンスクリーンディスプレイ	オン	OSD画面をテレビに表示するかどうかを設定します。 「オン」: 操作画面をテレビに表示する 「オフ」: 操作画面をテレビに表示しない • この設定を「オン」にしても、入力信号によっては操作画面が表示されないことがあります。表示されない場合は、接続機器の解像度を変更してください。
言語(Language)	日本語	OSDに表示する言語を選びます。
スクリーンセーバー	3min	OSDのスクリーンセーバーの起動時間の設定です。「3min」、「5min」、「10min」、「オフ」から選びます。

12VトリガーA設定

12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。任意の入力切換を選んだときに、12Vトリガー出力端子から最大12V/150mAの制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。

設定項目	初期値	設定内容
遅延	0sec	本機の動作に連動して、何秒後に12Vトリガー出力を行うかを設定します。接続する機器によっては電源ON時に大容量の電源が流れる場合がありますので、その場合は出力を遅らせてください。 「0sec」～「3sec」から選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
CBL/SAT	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
STB/DVR	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
GAME	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
PC	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
AUX	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
TV/CD	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
PHONO	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
TUNER	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
NET	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
USB	メイン	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

12Vトリガー B設定

12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。任意の入力切換を選んだときに、12Vトリガー出力端子から最大12V/25mAの制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。

設定項目	初期値	設定内容
遅延	1sec	本機の動作に連動して、何秒後に12Vトリガー出力を行うかを設定します。接続する機器によっては電源ON時に大容量の電源が流れる場合がありますので、その場合は出力を遅らせてください。 「0sec」〜「3sec」から選びます。
BD/DVD	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
CBL/SAT	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
STB/DVR	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
GAME	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
PC	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
AUX	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
TV/CD	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
PHONO	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
TUNER	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
NET	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
USB	メイン/ゾーン2/ゾーン3	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

12Vトリガー C設定

12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。任意の入力切換を選んだときに、12Vトリガー出力端子から最大12V/25mAの制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。

設定項目	初期値	設定内容
遅延	2sec	本機の動作に連動して、何秒後に12Vトリガー出力を行うかを設定します。接続する機器によっては電源ON時に大容量の電源が流れる場合がありますので、その場合は出力を遅らせてください。 「0sec」～「3sec」から選びます。
BD/DVD	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
CBL/SAT	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
STB/DVR	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
GAME	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を､入力切換ごとに設定することができます｡設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください｡ 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生､ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
PC	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を､入力切換ごとに設定することができます｡設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください｡ 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生､ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
AUX	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を､入力切換ごとに設定することができます｡設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください｡ 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生､ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
TV/CD	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を､入力切換ごとに設定することができます｡設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください｡ 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生､ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

設定項目	初期値	設定内容
PHONO	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
TUNER	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
NET	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力
USB	ゾーン2	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。設定は各12V TRIGGER OUT端子に対して行ってください。 「オフ」: 出力をしない場合 「メイン」: メインルーム再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2」: ZONE2再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2」: メインルーム再生またはZONE2再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン3」: ZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン3」: メインルーム再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「ゾーン2/ゾーン3」: ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」: メインルーム再生、ZONE2再生またはZONE3再生の入力に選んだときに出力

7. ハードウェア設定

マルチゾーン

設定項目	初期値	設定内容
ゾーン2出力	固定	ゾーン2に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。 「固定」: 別室のプリメインアンプで調整する場合 「可変」: 本機で調整する場合
ゾーン2最大ボリューム値	オフ	ゾーン2で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「50」～「99」から選びます。
ゾーン2電源オン時ボリューム値	最終値	本機の電源を入れたときのゾーン2の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「最小」、「1」～「99」、「最大」から選びます。 • この設定値は、「ゾーン2最大ボリューム値」の設定の値より高く設定できません。
ゾーン3出力	固定	ゾーン3に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。 「固定」: 別室のプリメインアンプで調整する場合 「可変」: 本機で調整する場合
ゾーン3最大ボリューム値	オフ	ゾーン3で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「50」～「99」から選びます。
ゾーン3電源オン時ボリューム値	最終値	本機の電源を入れたときのゾーン3の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「最小」、「1」～「99」、「最大」から選びます。 • この設定値は、「ゾーン3最大ボリューム値」の設定の値より高く設定できません。

HDMI

設定項目	初期値	設定内容
HDMI CEC (RIHD)	オフ	この設定を「オン」にすると、HDMI接続したCEC対応機器と入力切換連動などの連動機能が働きます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 • ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などが必要です。 • この設定は、HDMI OUT MAIN端子に接続した場合にのみ有効です。 • この設定を「オン」にして、操作画面を閉じると、本体表示部に接続されているCEC対応機器名称と「RIHD On」が表示されます。 • この設定を「オン」にすると、スタンバイ状態での消費電力が増加することがあります。(テレビの状態により、通常の待機時消費電力モードになります。) • この設定が「オン」で、テレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本体のMaster Volumeつまみを操作すると、本機に接続したスピーカーからも音声が出ます。どちらか一方の音声のみ出力したい場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 • この設定を「オン」にして、異常な動作をする場合は「オフ」にしてください。 • 接続した機器がCECに対応していない場合や、対応しているかわからない場合は、「オフ」にしてください。 • この設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。

設定項目	初期値	設定内容
制御するモニター	MAIN	マルチゾーン機能使用時、メインルームまたは別室のどちらのモニターとのCEC連動機能を有効にするかを設定します。 「MAIN」: メインルームのモニターとのCEC連動機能を有効にする場合 「ゾーン2」: ゾーン2のモニターとのCEC連動機能を有効にする場合 ● 「モニター出力設定」を「SUB」に設定しているときは、「MAIN」を選択することはできません。 ● 「ゾーン2」は、「ゾーン2モニター出力設定」が「使用する」に設定されているときのみ選択できます。 ● 「制御するモニター」で「ゾーン2」選択中は、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。

設定項目	初期値	設定内容
HDMIスルー	オフ	本機がスタンバイ状態でも、HDMI接続している再生機器の映像を、テレビに映し出すことができます。この設定は「HDMI入力」でHDMI端子を割り当てた入力切換ボタンに対してのみ有効です。HDMI端子が割り当てられていない入力切換ボタンに対して設定することはできません。 「オフ」: この設定を無効にします。どの端子に接続している機器の映像もテレビに映し出されません。 「BD/DVD」、「CBL/SAT」、「STB/DVR」、「GAME」、「PC」、「AUX」、「TV/CD」、「PHONO」: 各入力切換に割り当てられたHDMI IN端子に接続された機器からの映像をテレビに映し出します。 「最終値」: 本機をスタンバイ状態にする直前に選択していた入力切換ボタンに割り当てられたHDMI IN端子に接続された機器からの映像をテレビに映し出します。 「自動」: すべてのHDMI IN端子に接続された機器からの映像をテレビに映し出します。 「自動(エコ)」: すべてのHDMI IN端子に接続された機器からの映像をテレビに映し出します。CECに対応したテレビをご使用の場合は、この設定にしておくと、スタンバイ状態での消費電力を低減できます。 ● 以下の場合は、「自動」および「自動(エコ)」を選択することはできません。 – 「HDMI CEC (RIHD)」を「オフ」に設定している場合 – 「HDMI CEC (RIHD)」を「オン」に設定している、かつ「制御するモニター」を「ゾーン2」に設定している場合 ● 「HDMIスルー」設定中は、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動しているHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の上昇を最小限に抑制します。 ● 設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。

設定項目	初期値	設定内容
テレビオーディオ出力(MAIN)	オフ	本機の電源が入った状態で、HDMI接続したテレビのスピーカーから音声を聴くことができます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 • 「オン」にする場合は「HDMI CEC (RIHD)」の設定を「オフ」にしてください。 • 「HDMI CEC (RIHD)」の設定を「オン」にしている、かつ「制御するモニター」の設定を「MAIN」にしている場合、この設定は「自動」に固定されます。 • 「テレビオーディオ出力(MAIN)」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。 • お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。 • 「テレビオーディオ出力(MAIN)」、または「HDMI CEC (RIHD)」の設定が「オン」で、テレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本体のMaster Volumeつまみを操作すると、本機から音声が出ます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 • 「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「モニター出力設定」を「SUB」にした場合は、この設定が「オフ」に固定されます。

設定項目	初期値	設定内容
テレビオーディオ出力(SUB)	オフ	本機の電源が入った状態で、HDMI接続したテレビのスピーカーから音声を聴くことができます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 • 「テレビオーディオ出力(SUB)」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。 • お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。 • 「テレビオーディオ出力(SUB)」の設定が「オン」で、テレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本体のMaster Volumeつまみを操作すると、本機から音声が出ます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 • 「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「モニター映像出力」の設定を「MAIN」にした場合は、この設定が「オフ」に固定されます。
Audio Return Channel	-	HDMI接続したARC機能対応テレビの音声信号を、本機と接続したアンプに出力します。この機能を使用するには、あらかじめ「HDMI CEC (RIHD)」を「オン」に設定しておいてください。 「自動」: テレビの音声信号を本機に接続したアンプに出力する場合 「オフ」: ARC機能を使用しない場合 • この設定を行う場合は「制御するモニター」の設定を「MAIN」にしてください。
ジャンル連動	自動	テレビからのジャンル情報に応じて、あらかじめ用意されたリスニングモードに自動的に切り換えます。 「自動」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合
リップシンク	オン	HDMI LipSync対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。 「オン」: 自動補正機能を有効にする場合 「オフ」: 自動補正機能を使用しない場合

設定項目	初期値	設定内容
InstaPrevue 子画面の表示方法	すべて表示	HOMEメニューの「InstaPrevue」で表示されるHDMI入力映像のプレビュー画面の表示方法を設定します。 「すべて表示」: HDMI IN 1/2/3/4/Frontのプレビュー画面を一括表示 「一つ表示」: プレビュー画面を個別に表示 ● 入力映像によっては、「子画面の表示方法」の設定の子画面が正しく表示されない場合があります。
InstaPrevue 子画面の表示位置	下/右下	HOMEメニューの「InstaPrevue」で表示されるHDMI入力映像のプレビュー画面の表示位置を設定します。 「子画面の表示方法」で「すべて表示」を選んだ場合 : 「 上」、「下」、「左」、「右」から選びます。 「子画面の表示方法」で「一つ表示」を選んだ場合 : 「 左上」、「右上」、「左下」、「右下」から選びます。 ● 入力映像によっては、「子画面の表示方法」の設定の子画面が正しく表示されない場合があります。

自動スタンバイ

設定項目	初期値	設定内容
自動スタンバイ	オフ	映像または音声入力がない状態で本機を20分間操作しなかった場合、自動的にスタンバイ状態に移行させることができます。 「オン」: 自動的にスタンバイ状態に移行させる場合(「ASb」表示が点灯します。) 「オフ」: スタンバイ状態への移行をさせない場合 ● スタンバイ状態に移行する30秒前に本体表示部とメニュー画面に「Auto Standby」と表示されます。 ● ゾーン2/ゾーン3に出力している場合、「自動スタンバイ」は動作しません。
HDMIスルー	オフ	「HDMIスルー」動作中の「自動スタンバイ」設定を有効または無効にします。 「オン」: 有効にする場合 「オフ」: 無効にする場合 ● 「自動スタンバイ」の設定が「オフ」の場合、この設定は変更できません。

- 「HDMIスルー」使用中は、本機がスタンバイ状態でも消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動しているHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の上昇を最小限に抑制します。

ネットワーク

ネットワーク接続に関する設定です。

- DHCPでLANを構築している場合は「DHCP」の設定を「有効」にして自動設定してください。(初期設定では「有効」になっています)また、各機器に固定IPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP」の設定を「無効」にして「IPアドレス」の設定で本機にアドレスを割り当て、サブネットマスクとゲートウェイなどお使いのLANに関する情報を設定する必要があります。

設定項目	初期値	設定内容
ネットワーク スタンバイ	オフ	Onkyo Remoteなど本機をコントロールできるアプリケーションを使用して、ネットワーク経由で本機の電源をオンにすることができます。 「オン」: この機能を有効にする場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 ● 「ネットワークスタンバイ」使用中は、本機がスタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動しているHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の上昇を最小限に抑制します。
MACアドレス	-	本機のMACアドレスを確認します。 この値は機器固有のものであり、変更はできません。
DHCP	有効	「有効」: DHCPで自動設定する 「無効」: DHCPを使わず手動設定する ● 「無効」を選んだ場合、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNSサーバー」は手動で設定してください。
IPアドレス	-	IPアドレスを表示・設定します。

設定項目	初期値	設定内容
サブネットマスク	-	サブネットマスクを表示・設定します。
ゲートウェイ	-	ゲートウェイアドレスを表示・設定します。
DNSサーバー	-	DNSサーバー(プライマリ)を表示・設定します。
プロキシURL	-	プロキシサーバーのURLを表示・設定します。
プロキシポート	-	「プロキシURL」入力時にプロキシサーバーのポート番号を表示・設定します。
ネットワーク確認	-	「Start」が表示された状態でEnterボタンを押して、ネットワーク接続の確認を行います。

- 「ネットワーク」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

ファームウェアアップデート

設定項目	初期値	設定内容
アップデート通知	有効	更新可能なファームウェアが存在する場合、ネットワーク経由で更新を通知します。 「有効」: 通知する場合 「無効」: 通知しない場合
バージョン	-	現在のファームウェアのバージョンを表示します。
ネットワーク経由のアップデート	-	ネットワーク経由でファームウェアを更新するときにEnterボタンを押して選択します。 ● インターネットに接続していない場合や、更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。
USB経由のアップデート	-	USB経由でファームウェアを更新するときにEnterボタンを押して選択します。 ● USBストレージを接続していない場合や、USBストレージに更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。

- 「ファームウェアアップデート」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

初期設定

初期設定をセットアップメニューから行うことができます。

- 「初期設定」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

8. リモコン設定

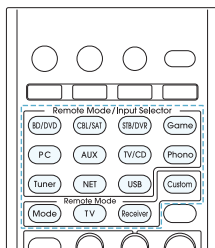
設定項目	初期値	設定内容
リモコンID	1	インテグラ/オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、他の製品との混線を防ぐために、本機で使うリモコンのIDを「1」、「2」、「3」から選び、設定します。IDを変更した場合、以下の操作でリモコン本体も本体側と同じIDに設定してください。 1. Receiverボタンを押しながら、Receiverボタンが点灯するまでQ Setupボタンを約3秒間押します。 2. 数字ボタンで1、2、3のいずれかを押します。Receiverボタンが2回点滅します。
リモコン登録	-	他機器のリモコンコードを入力して登録します。 ● リモコンコードの登録について詳しくは、「リモコンで他の製品を操作する」をご覧ください。

9. ロック設定

設定項目	初期値	設定内容
セットアップ	解除	セットアップメニューをロックして、設定を保護します。 「ロック」: ロックを設定 「解除」: ロックを解除

リモコンで他の製品を操作する

Remote Modeボタンの機能

リモコンのRemote Modeボタンには、特定のリモコンコードをプログラムすることで、本機以外の製品を操作することを可能にする機能が備わっています。任意のRemote Modeボタンにリモコンコードを登録し、そのボタンを押すと、リモコンが対応する機器を操作するリモートモードに切り換わります。

＊Receiverボタン、Zoneボタンにはリモコンコードを登録することはできません。

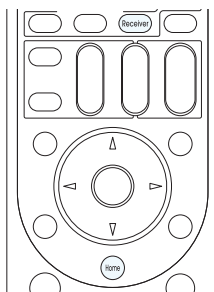
リモコンコードを登録する

RI端子付きのインテグラ/オンキヨー製品の設定や操作については、「RI端子付きオンキヨー製品との接続・操作」をご参照ください。また、次のRemote Modeボタンにはあらかじめリモコンコードが登録されています。

BD/DVDボタン：インテグラ/オンキヨー製ブルーレイディスク／DVDプレーヤー
TV/CDボタン：インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤー

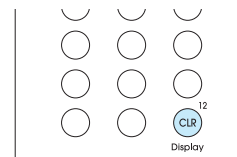
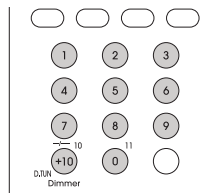
■ セットアップメニューで検索して登録する

本機のセットアップメニューで、リモコンコードを検索し、任意のRemote Modeボタンに登録することができます。

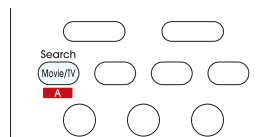
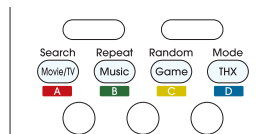
1. リモコンのReceiverボタンを押したあとに、Homeボタンを押します。

2. カーソルで「セットアップ」を選び、Enterボタンを押します。
3. カーソルで「8.リモコン設定」-「リモコン登録」を順に選び、Enterボタンを押します。
4. カーソルでリモコンコードを登録するRemote Modeボタンを選び、Enterボタンを押して、サブカテゴリーの選択画面を表示させます。
5. カーソルで検索したいサブカテゴリーを選び、Enterボタンを押して、ブランド名の入力画面を表示させます。
6. カーソルで文字を選び、Enterボタンをくり返し押して、検索したいブランド名の最初の3文字を入力します。
7. カーソルで「Search」を選び、Enterボタンを押します。
   - 検索が終わると、ブランド名の候補がリストで表示されます。ブランド名のリストが表示されなかった場合は、カーソルで「Not Listed」を選んでEnterボタンを押すと、手順6のブランド名入力画面に戻ります。
8. カーソルで登録したいブランド名を選び、Enterボタンを押します。
   - 該当するブランド名を決定したら、そのブランドのリモコンコードと登録手順がテレビ画面に表示されます。
9. テレビ画面のガイダンスに沿って登録操作を行います。
10. リモコンコードを登録した機器が操作できる場合は、カーソルで「OK」を選び、Enterボタンを押します。
   - TVボタンにはテレビカテゴリーのリモコンコードしか登録できません。
   - 各ボタンは入力を切り換える機能も兼ねているので、入力に応じた機器のリモコンコードを登録してください。（たとえばCDプレーヤーをTV/CD端子に接続している場合は、TV/CDボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録するなど）
   - 機器が操作できない場合は、カーソルで「次のコードを試す」を選んでEnterボタンを押すと、次のコードが表示されます。
   - MHL対応モバイル機器のコード「33501」を本機のリモコンに登録すると、MHL対応モバイル機器を本機のリモコンで操作することができます。ご使用のモバイル機器によっては、動作が不安定だったり正しく動作しない場合があります。

■ リモコンコード表を参照して登録する

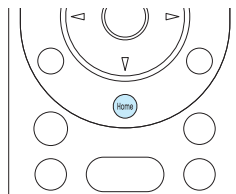
リモコンコード表から、該当するリモコンコードを探して登録する方法です。

1. リモコンコード表を参照して、該当するリモコンコードを探します。
   - リモコンコード表は作成時点のものであり、変更される場合もあります。
   - TVボタンにはテレビカテゴリーのリモコンコードしか登録できません。
   - 各ボタンは入力を切り換える機能も兼ねているので、入力に応じた機器のリモコンコードを登録してください。（たとえばCDプレーヤーをTV/CD端子に接続している場合は、TV/CDボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録するなど）
2. リモコンコードを登録するRemote Modeボタンを押しながら、Displayボタンを3秒以上押します。
   - 入力モードに入ったら、Remote Modeボタンが点灯します。

3. 30秒以内に、数字ボタンでリモコンコード（5桁）を入力します。
   - 登録が完了したら、Remote Modeボタンが2回点滅します。正しく登録できなかった場合は、Remote Modeボタンがゆっくりと1回点滅しますので、再度登録操作を行ってください。

■ カラーボタンの割り当てを変更する

Remote Modeボタンに登録されたリモコンコードの機器のリモコンと、本機のリモコンのカラーボタンの割り当て順を一致させることができます。なお、ゾーン2/ゾーン3を選んでいる場合は変更できません。

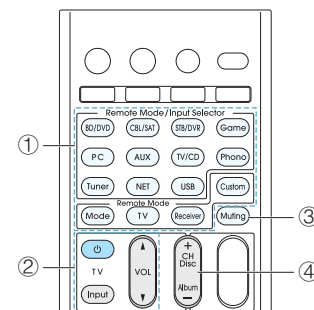
1. 設定するRemote ModeボタンとA(赤)ボタンをRemote Modeボタンが点灯するまで、約3秒間同時に押します。
   - リモコンコードのカテゴリーに属するコードに対してのみ割り当てを変更できます。(DVDプレーヤー、テレビなど)

2. 30秒以内に、左から右へと割り当てたい順番でカラーボタンを押します。
   - たとえば、他の製品のリモコンのカラーボタンが左から黄、緑、青、赤と割り当てられている場合は、本機のリモコンもその順に押してください。
   - 登録が完了したら、Remote Modeボタンが2回点滅します。正しく登録できなかった場合は、Remote Modeボタンがゆっくりと１回点滅しますので、再度登録操作を行ってください。
   - カラーボタン以外のボタンを押すと、登録がキャンセルされます。

■ Remote Modeボタンをリセットする

Remote Modeボタンに登録したリモコンコードをリセットし、ボタンの設定をお買い上げ時の状態に戻します。この操作は、Remote Modeボタン1つに対してのみ行うことができます。

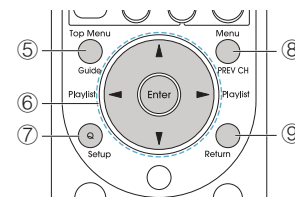
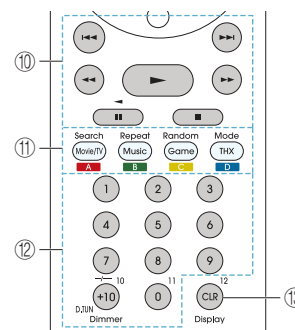
1. リセットしたいRemote Modeボタンを押しながら、Homeボタンを3秒以上押します。
   - Remote Modeボタンが点灯します。

2. 30秒以内に、Remote Modeボタンを再度押します。
   - リセットが完了したら、Remote Modeボタンが2回点滅します。

リモコンのすべての設定をリセットするには：Receiverボタンを押しながら、Receiverボタンが点灯するまで、Homeボタンを3秒以上押します。30秒以内に、Receiverボタンを再度押してください。リセットが完了したら、Receiverボタンが2回点滅します。

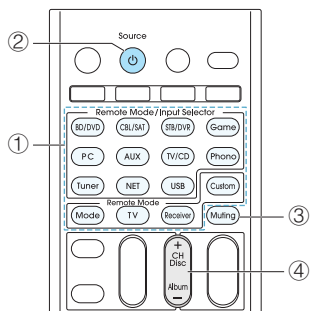
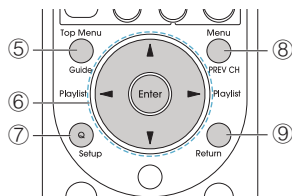
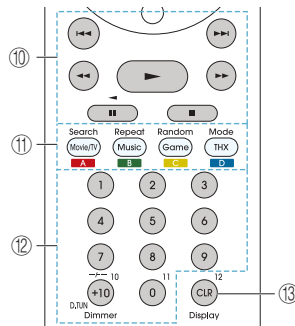
テレビの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、または まったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻、Input、VOL ▲/▼
③ Muting
④ CH ＋/－

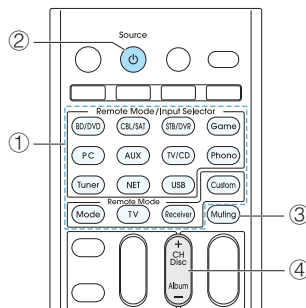
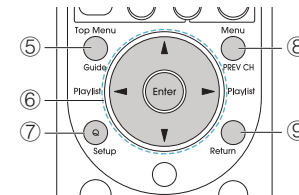
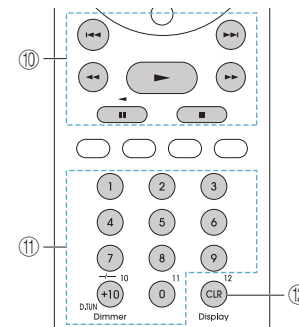
⑤ Guide
⑥ ▲/▼/◄/►、Enter
⑦ Setup
⑧ PREV CH
⑨ Return

⑩ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙

⑪ A（赤）、B（緑）、C（黄）、D（青）
⑫ 数字1〜9、0、＋10
⑬ CLR、Display

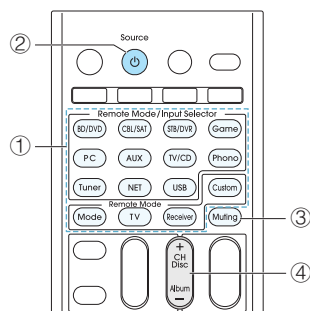
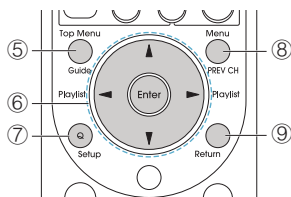
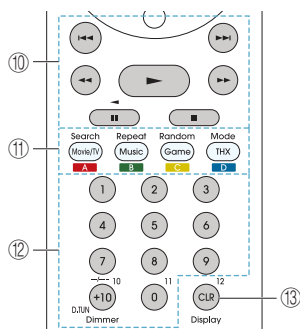
ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤー／DVDレコーダーの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、またはまったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting
④ CH ＋/－、Disc ＋/－

⑤ Top Menu
⑥ ▲/▼/◄/►、Enter
⑦ Setup
⑧ Menu
⑨ Return

⑩ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❚◄◄、►►❚
⑪ A（赤）、B（緑）、C（黄）、D（青）
⑫ 数字1〜9、0、＋10
⑬ CLR、Display

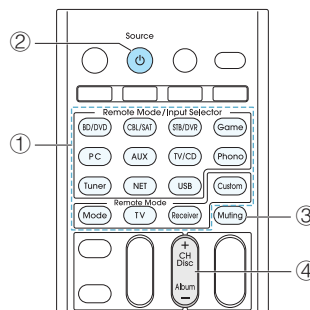
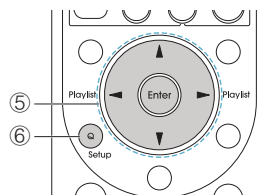
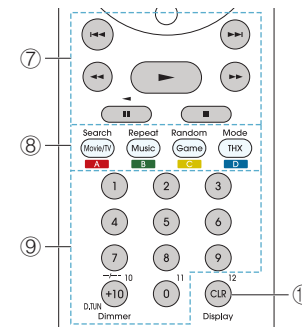
ビデオデッキテレビとの複合機などの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、またはまったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting
④ CH ＋/－

⑤ Guide
⑥ ▲/▼/◄/►、Enter
⑦ Setup
⑧ PREV CH
⑨ Return

⑩ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❚◄◄、►►❚
⑪ 数字1〜9、0、＋10
⑫ CLR、Display

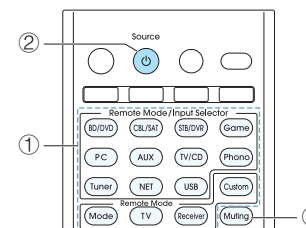
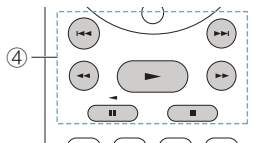
衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナーの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、またはまったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting
④ CH ＋/－

⑤ Guide
⑥ ▲/▼/◄/►、Enter
⑦ Setup
⑧ PREV CH
⑨ Return

⑩ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙
⑪ A（赤）、B（緑）、C（黄）、D（青）
⑫ 数字1～9、0、＋10
⑬ CLR、Display

CDプレーヤーの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、またはまったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting
④ Disc ＋/－

⑤ ▲/▼/◄/►、Enter
⑥ Setup

⑦ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙
⑧ Search、Repeat、Random、Mode
⑨ 数字1～9、0、＋10
⑩ CLR、Display

カセットテープデッキの操作

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、任意のAV機器を操作するモードに切り換えます。モードを切り換えたうえで、該当するボタンを使用して操作してください。製品カテゴリーによって使用できる操作ボタンが異なります。製品によっては、適切に動作しない、またはまったく動作しない場合があります。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting

④ ►、◄(リバース再生)、■、◄◄、►►、|◄◄、►►|

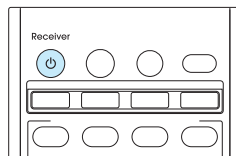
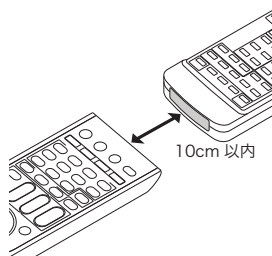
CEC対応の機器を操作する場合

リモコンのTVボタン、BD/DVDボタンには、あらかじめ一部のCEC(Consumer Electronics Control)に対応したテレビやブルーレイディスクプレーヤーを連動操作するリモコンコードが登録されています。本機とHDMI接続すれば、本機のリモコンでそれらを操作できる場合があります。

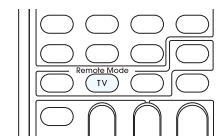
- お手持ちのCEC対応機器が操作できない場合は、TVボタン、BD/DVDボタンにそれぞれ次のリモコンコードを登録してください。
  TVボタン：11807/13100/13500(CEC対応テレビ)
  BD/DVDボタン：32910/33101/33501/31612
  (CEC対応BD/DVDプレーヤー)

他機のリモコンの機能を本機のリモコンに学習させる

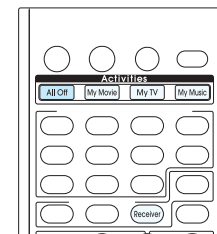
リモコンコードにあらかじめ記憶されているボタン以外の操作をしたいときなどに、お使いの機器のリモコンの機能を、本機のリモコンに学習させて操作することができます。リモコンコードを登録しても操作できない機能がある場合などに、次項の手順で本機のリモコンにお好みの機能を学習させてください。なお、リモコンに学習させることができる機能は、一度の操作で1つのみです。

1. 学習させたい機器のリモコンコードが登録されたRemote Modeボタンを押しながら、⏻Receiverボタンを Remote Modeボタンが点灯するまで、約3秒間押します。

2. 本機のリモコンの学習させたい操作ボタンを押します。
   - ⏻Receiverボタン、Zoneボタン、Activitiesボタン、Remote Mode/Input Selectorボタン、Remote Modeボタン(Mode、TV、Receiver)には、新しく機能を学習させることはできません。
3. お使いの機器のリモコン受光部と本機のリモコン受光部とを合わせて、10cm以内に置きます。

4. お使いの機器のリモコンの学習させたい機能のボタンを押します。
   正しく学習できると、Remote Modeボタンが2回点滅します。
   - 別の機能を学習させる場合は、手順2～4をくり返します。
5. 学習を終了する場合は、Remote Modeボタンを押します。
   Remote Modeボタンが2回点滅します。

- すでに機能が登録されているボタンに新しく機能を学習させた場合は、上書きして登録されます。
- 本機のリモコンには、70～90個の機能を学習させることができます。
- 本機のリモコンは赤外線を利用しています。リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できない場合があります。また、リモコンによっては、意図したとおりに動かず学習させることができない場合があります。

学習した機能を消去するには：消去したい機能が登録されたRemote Modeボタンを押しながら、Remote Modeボタンが点灯するまでTVボタンを約3秒間押します。

また、学習した機能をすべて消去する場合は、再度Remote Modeボタンを押します。学習したボタンごとに消去する場合は、消去するボタンを押します。Remote Modeボタンが2回点滅して、学習した操作が消去されます。

一連の操作をリモコンに学習させて操作する(マクロ機能)

通常複数回のボタンを押して行う一連の操作を、リモコンのActivitiesボタン(My Movie、My TV、My Music)を押すだけで自動的に行うことができます。

■ あらかじめ操作が登録されたActivitiesボタンを使う

以下のボタンには、それぞれ次のような操作が登録されています。使用するActivitiesボタン(My Movie、My TV、My Music)を押すと、操作が実行されます。

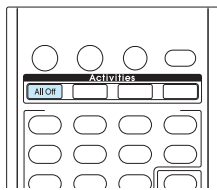
My Movie：テレビ、BD/DVDボタンに登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「BD/DVD」に切り換わり再生が開始されます。

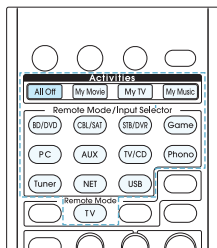
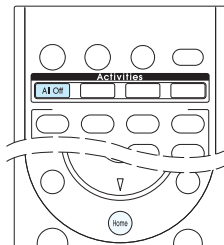
- 再生機器の起動時間によっては、再生が効かないことがあります。この場合、リモコンの►ボタンを押してください。

My TV：テレビ、CBL/SATボタンに登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「CBL/SAT」に切り換わります。

My Music：TV/CDボタンに登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「TV/CD」に切り換わり再生が開始されます。

- 任意のActivitiesボタンを押したあとに他のActivitiesボタンを使用する場合は、All Offボタンを押してから、他のActivitiesボタンを押してください。

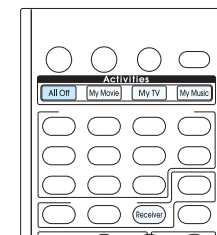
Activitiesボタンに登録されているすべての機器の電源をオフにするには：All Offボタンを押します。All Offボタンを押す前に押したActivitiesボタンに登録されている再生機器、本機、テレビの電源がオフ（またはスタンバイ状態）になります。

- All Offボタンを押す前に押したボタンがMy Musicの場合は、テレビの電源はオフ（もしくはスタンバイ状態）になりません。
- 電源がオフ（もしくはスタンバイ状態）にならないテレビもあります。

Activitiesボタンに登録されている再生機器を変更するには：操作したい再生機器が登録されているRemote Modeボタンを押しながら、変更したいActivitiesボタンを約3秒間押し続けます。Activitiesボタンが2回点滅し、変更が完了します。

Activitiesボタンをリセットするには：Homeボタンを押しながら、All Offボタンが点灯するまでAll Offボタンを約3秒間押し続けます。次に、押していたHomeボタンとAll Offボタンを離し、All Offボタンをもう一度押すと、All Offボタンが2回点滅してリセットされます。

■ お好みの操作をActivitiesボタンに学習させて操作する

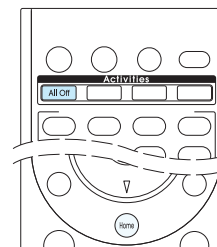
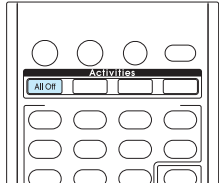
一連の操作を任意のActivitiesボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには、以下のようなボタン操作が必要となります。

1. Receiverボタンを押し、リモコンをReceiverモードにします。
2. ⏻Receiverボタンを押し、本機の電源を入れます。
3. TV/CDボタンを押し、本機の入力をTV/CDに切り換えます。
4. ► ボタンを押し、CDプレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順で学習させると、1つのボタンを押すだけで操作することができます。一度に学習させることができる操作は32個までです。

1. Receiverボタンを押しながら、学習させたいActivitiesボタン（My Movie、My TV、My Music）が点灯するまでActivitiesボタン（My Movie、My TV、My Music）を約3秒間押します。

2. 学習させたい操作ボタンを、操作順に連続して押します。
   例：CDを再生する
   1. ⏻Receiverボタンを押す
   2. TV/CDボタンを押す
   3. ► ボタンを押す
3. 手順1で押したActivitiesボタン（My Movie、My TV、My Music）を再度押します。
   Activitiesボタンが2回点滅し、学習が完了します。
   - 一連の操作をActivitiesボタンに学習させたあとに、その操作に含まれるボタンに他の操作を上書きして学習させると、誤動作の原因になります。
4. 学習させた操作を実行する場合は、操作を実行するActivitiesボタンを押します。

学習させた操作を消去するには：

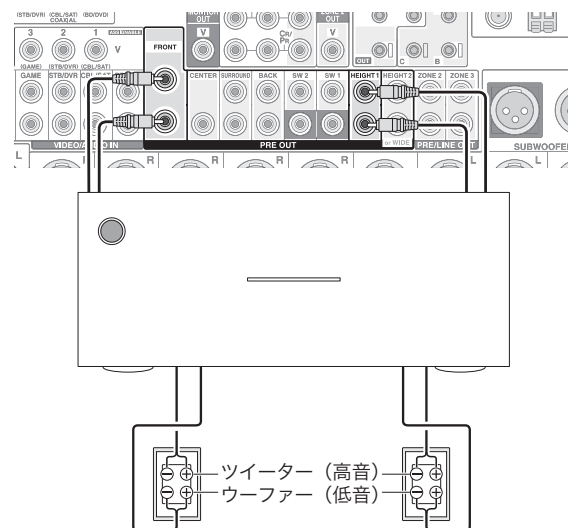
1. Homeボタンを押しながら、All Offボタンが点灯するまでAll Offボタンを約3秒間押します。

2. 再度All Offボタンを押して消去します。
   All Offボタンが2回点滅します。

- 学習させた操作を消去すると、Activitiesボタンはあらかじめ登録された内容に戻ります。

応用的な接続

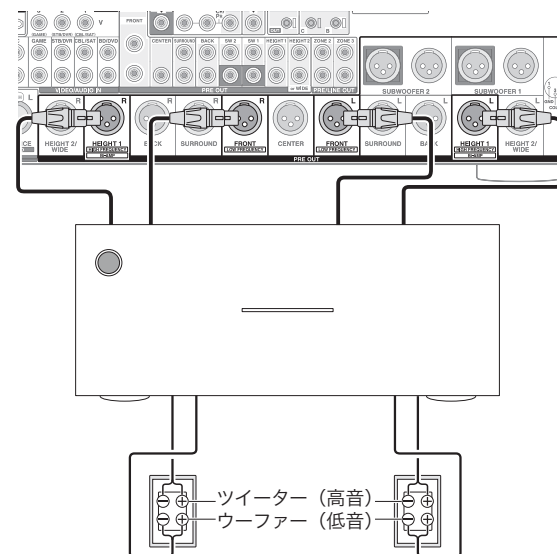
バイアンプ対応スピーカーの接続

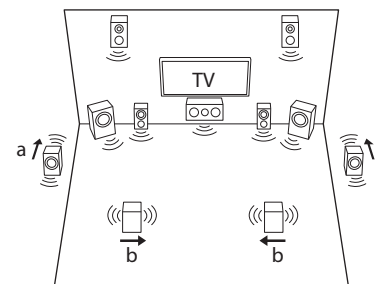
バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続して、低音域と高音域の音質を向上させることができます。バイアンプ接続では、最大9.2チャンネル再生になります。

■ PRE OUT RCA端子で接続する

1. 下図のように、FRONT端子とHEIGHT 1端子を使用して接続します。

2. 本機の電源を入れ、バイアンプ接続設定を行います。
   ① リモコンのReceiverボタンを押したあとに、Homeボタンを押します。
   ② カーソルで「セットアップ」を選び、Enterボタンを押します。
   ③ カーソルで「2. スピーカー設定」-「スピーカーセッティング」-「フロントスピーカータイプ」の順に選びます。
   ④ カーソルで「バイアンプ」を選びます。
   - バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐショート金具を必ず取り外してください。
   - バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ PRE OUT XLR端子で接続する

1. 下図のように、FRONT端子とHEIGHT 1（Bi-AMP）端子を使用して接続します。

ダイポール型スピーカーの接続

サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの代わりに、ダイポール型スピーカーを使うことができます。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど2つの方向に同じ音を出す双指向性スピーカーのことです。

■ 接続する

ダイポール型スピーカーでは、位相（＊）を合わせるために、矢印の表示が書いてあります。サラウンドスピーカー（a）は矢印（↑）がテレビに向かうように配置し、サラウンドバックスピーカー（b）は、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

＊位相：正弦波の1周期（0〜360度）における波形の位置。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス（+）、マイナス（−）の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聴きづらさがあったりします。

RI端子付きオンキヨー製品との接続・操作

RI機能の概要

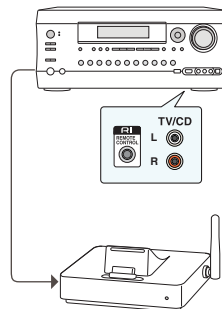
別売りのRIドックなど、RI端子付きのオンキヨー製品と本機を、RIケーブルおよびオーディオ用ピンケーブルで接続すると、以下のような連動機能が働きます。

システムオンとオートパワーオン：本機がスタンバイモードになっている状態で、RI接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

ダイレクトチェンジ：RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

リモコン操作：本機のリモコンを使って、RIに対応しているオンキヨー製機器を操作できます。リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作します。この操作にはRI専用リモコンコードの登録が必要です。

- 製品によっては、RI接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- ゾーン2/ゾーン3への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

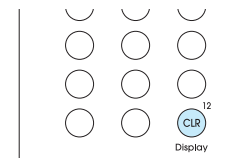
RI接続と設定について

RI端子付き製品と本機をRIケーブルおよびオーディオ用ピンケーブルで接続します。詳細はRI端子付き製品の取扱説明書をご参照ください。なお、RIケーブルの接続は、順序の指定はありません。また、RI端子が２つある場合でも、2つの端子の働きは同じで、どちらにも接続できます。
RIドックやカセットテープデッキをRI接続する場合は、次の設定が必要です。

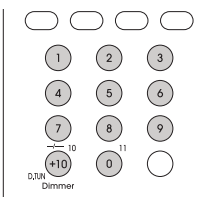
■ 入力切換の名前の変更

システム連動を動作させるために、本機の入力切換の名前を変更する必要があります。TV/CDまたはGameボタンを押して、本体表示部に「TV/CD」または「GAME」を表示させます。次にTV/CDまたはGameボタンを3秒間押し続けて、「DOCK」または「TAPE」に表示を切り換えてください。

■ RI専用リモコンコードの登録

リモコンの任意のRemote Modeボタンにリモコンコードを登録します。RI専用リモコンコードをリモコンに登録することにより、リモコンをその機器ではなく本体に向けて操作できます。

1. リモコンコードを登録したいRemote Modeボタンを押しながら、Displayボタンを3秒以上押します。
   - Remote Modeボタンが点灯します。
   - Receiverボタン、Zoneボタン、TVボタンには登録できません。

   - 30秒以内に、数字ボタンで以下のリモコンコード（5桁）を入力します。

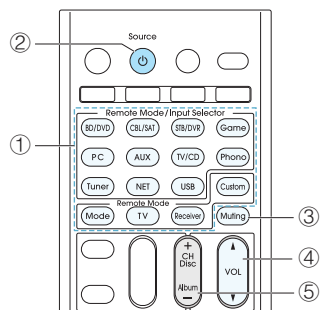
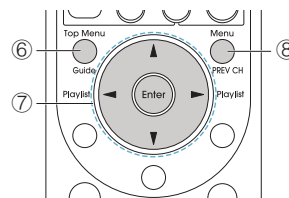
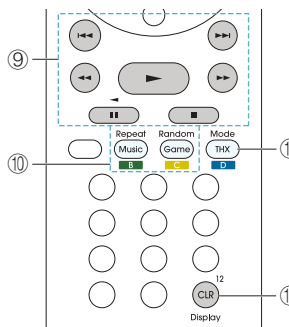
   RIドック：81993
   RI端子付きカセットテープデッキ：42157
   - 登録が完了したら、Remote Modeボタンが2回点滅します。正しく登録できなかった場合は、Remote Modeボタンがゆっくりと1回点滅しますので、再度登録操作を行ってください。

RIドックの切換スイッチ：「DOCK」または「TAPE」に切り換えてください。詳しくはRIドックの取扱説明書をご参照ください。

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作する場合や、RI接続していないオンキヨー製機器を操作する場合は、次のリモコンコードをお使いください。
オンキヨー製DVDプレーヤー：30627
オンキヨー製CDプレーヤー：71817
RIドック：82990
- 機種によっては、操作できなかったり一部の機能しか操作できない場合があります。

iPod/iPhoneの操作

RIドックを使うと、iPod/iPhone内の音楽を本機のリモコンで操作・再生できます。また、テレビ画面でiPod/iPhone内の画像が楽しめたり、システム連動操作も可能です。この操作にはRI専用リモコンコードの登録が必要です。

操作を始める前に：必ずiPod/iPhoneのOSを最新バージョンに更新してください。iPod/iPhoneの機種や世代またはRIドックによっては、特定のボタンが機能しない場合があります。操作の詳細は、RIドックの取扱説明書をご参照ください。

リモコンコードを登録したRemote Modeボタンを押して、操作モードを切り換え、該当する操作ボタンを使用します。リモコンを本機に向けて操作してください。

① Remote Mode
② ⏻Source
③ Muting
④ VOL ▲/▼
⑤ Album ＋/－

⑥ Top Menu
⑦ ▲/▼/◄/►、Enter、Playlist◄/►
⑧ Menu

⑨ ►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙
⑩ Repeat、Random
⑪ Mode
⑫ Display

- Displayボタンを押すと、バックライトが数秒間点灯します。

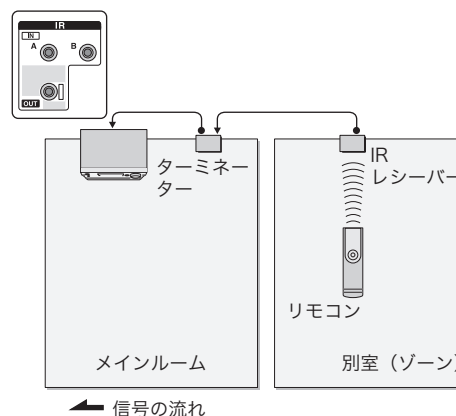
外部機器とのコントロール機能

以下の端子を使用して、外部機器とのコントロール機能を働かせることができます。機能を働かせるには専用の機器やケーブルの導入が必要です。導入については専門の販売店にお問い合わせください。

■ RS232端子

ホームオートメーションを実現する統合コントロールシステムとの接続に使用します。統合コントロールシステムには、映像や音響を中心とした家電製品や、セキュリティ機器を1台のタッチパネル式コントローラーで操作できるものなどがあります。統合コントロールシステムの導入については専門の販売店にお問い合わせください。

■ IR端子

市販のXantechやNilesなど、マルチルームリモートコントロールキットを使用すると、本機を別室からリモコンで操作したり、リモコン受光部が見えにくい場合にもリモコンで操作することができます。また、本機と別の機器を接続して、リモコンで別の機器を操作することもできます。マルチルームリモートコントロールキットの導入については専門の販売店にお問い合わせください。

■ 12Vトリガー出力端子

パワーアンプなど12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を可能にする端子です。本機は任意の入力切換を選んだときに、12V TRIGGER OUT A端子から最大12V/150mA（12V TRIGGER OUT BまたはC端子をご使用の場合は最大12V/25mA）の制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。
各入力切換は設定を行うことで、「メインルームで再生したとき」、「ZONE2（またはZONE3）で再生したとき」、「メインルームまたはZONE2（またはZONE3）で再生したとき」、「ZONE2またはZONE3で再生したとき」、「メインルームまたはZONE2またはZONE3で再生したとき」のいずれかを選んで制御信号を出力できます。なお、接続には抵抗なしのミニプラグ付モノラルケーブルを使用してください。

ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートの概要

ファームウェアの更新は、ネットワーク経由とUSB経由の2つの方法があります。
お客様の環境に応じて、いずれかの方法で更新してください。

- 最新の更新情報については、弊社ホームページでご確認ください。
- 更新の前に、測定用マイクを接続していないことを確認してください。
- 更新中は、以下のことを行わないでください。
  - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
  - PCやAndroidのアプリケーションからの本機へのアクセス
- ネットワーク経由またはUSB経由のどちらの方法も、更新には約20分かかります。
  また、どちらの方法で更新しても設定した内容は保持されます。

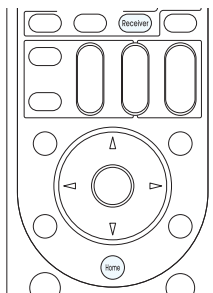
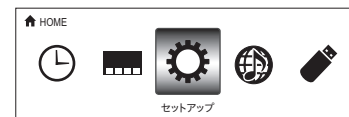
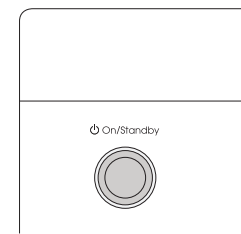
免責事項：本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。
弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

ネットワーク経由で更新する

はじめに：
- 本機の電源が入っていること、インターネットに接続していることを確認してください。
- ネットワークに接続されたコントロール機器（PCなど）の電源を切ってください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
- マルチゾーン機能を使用している場合は、本体のOffボタンを押して機能をオフにしてください。
- 「HDMI CEC (RIHD)」設定を「オン」にしている場合は、「オフ」（初期値）にしてください。
  - リモコンのReceiverボタンを押したあと、Homeボタンを押して、カーソルで「セットアップ」を選びEnterボタンを押します。次に「7. ハードウェア設定」-「HDMI」を選び、Enterボタンを押したあと、「HDMI CEC (RIHD)」を選び、「オフ」を選びます。

＊ 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

■ アップデート

1. リモコンのReceiverボタンを押したあとに、Homeボタンを押します。

テレビ画面にHOMEメニューが表示されます。

2. カーソルで「セットアップ」-「7. ハードウェア設定」-「ファームウェアアップデート」-「ネットワーク経由のアップデート」を順に選び、Enterボタンを押します。
   - 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
   - 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「ネットワーク経由のアップデート」は選べません。
3. 「アップデート」が選ばれた状態で、Enterボタンを押して更新を開始します。
   - 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
   - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
4. 本体の⏻On/Standbyボタンを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
   - リモコンの⏻Receiverボタンは使用しないでください。

■ エラーが表示されたときは

エラー時は、本体表示部に「∗-∗∗ Error!」と表示されます。(「∗」は表示される英数字を表しています。)以下の説明を参照し、確認してください。

エラーコード

- **∗-01, ∗-10**：
  LANケーブルが認識できません。LANケーブルを正しく接続してください。
- **∗-02, ∗-03, ∗-04, ∗-05, ∗-06, ∗-11, ∗-13, ∗-14, ∗-16, ∗-17, ∗-18, ∗-20, ∗-21**：
  インターネットに接続できません。以下の項目を確認してください。
  - ルータの電源が入っている
  - 本機とルータがネットワーク接続されている

  本機およびルータの電源の抜き差しをお試しください。改善することがあります。それでもインターネットにつながらない場合は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
- **その他**：
  一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

USB経由で更新する

はじめに：

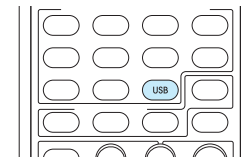
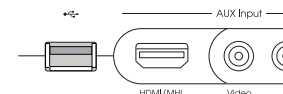
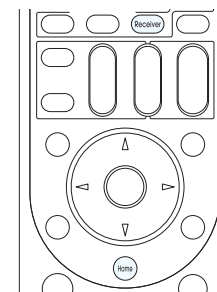
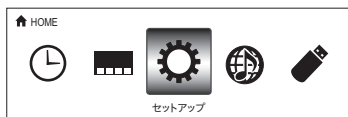
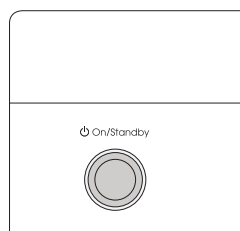
- 64 MB以上の容量のUSBストレージを準備してください。
  - USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
  - セキュリティ機能付きのUSBストレージには対応していません。
  - ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- USBストレージにデータがある場合は消去してください。
- ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
- マルチゾーン機能を使用している場合は、本体のOffボタンを押して機能をオフにしてください。
- 「HDMI CEC (RIHD)」設定を「オン」にしている場合は、「オフ」(初期値)にしてください。
  - リモコンのReceiverボタンを押したあと、Homeボタンを押して、カーソルで「セットアップ」を選びEnterボタンを押します。次に「7. ハードウェア設定」-「HDMI」を選び、Enterボタンを押したあと、「HDMI CEC (RIHD)」を選び、「オフ」を選びます。

＊ USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合、正しく内容を読み込めない場合、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。

＊ USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

＊ 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

■ アップデート

1. お使いのPCにUSBストレージを接続します。
2. 弊社ホームページからお使いのPCにファームウェアファイルをダウンロードして、解凍します。
   ファームウェアには、以下のようなファイル名が付いています。
   ONKAVR∗∗∗∗_∗∗∗∗∗∗∗∗∗∗∗∗.zip
   PC上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。
3. 解凍したファイルやフォルダをすべてUSBストレージのルートフォルダにコピーします。
   - 必ず解凍したファイルをコピーしてください。
4. リモコンのUSBボタンを押して、「USB」を選びます。

5. USBストレージを本体のUSB端子に接続します。
   - USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
   - USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。

6. リモコンのReceiverボタンを押したあとに、Homeボタンを押します。

テレビ画面にHOMEメニューが表示されます。

7. カーソルで「セットアップ」-「7. ハードウェア設定」-「ファームウェアアップデート」-「USB経由のアップデート」を順に選び、Enterボタン押します。
   - 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
   - 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「USB経由のアップデート」は選べません。
8. 「アップデート」が選ばれた状態で、Enterボタンを押して更新を開始します。
   - 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
   - 更新中は、電源を切ったり、USBストレージを抜き差ししないでください。
   - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
9. 本機からUSBストレージを抜きます。
10. 本体の⏻On/Standbyボタンを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
    - リモコンの⏻Receiverボタンは使用しないでください。

■ エラーが表示されたときは

エラー時は、本体表示部に「＊-＊＊ Error!」と表示されます。（「＊」は表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

エラーコード

- **＊-01, ＊-10**：
  USBストレージが認識できません。USBストレージやUSBケーブルが、本体のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
  USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
- **＊-05, ＊-13, ＊-20, ＊-21**：
  USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。再度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。
- **その他**：
  一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

困ったときは

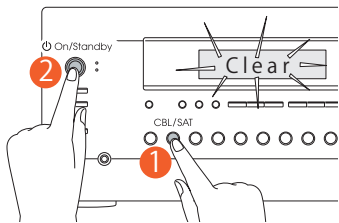
はじめにお読みください

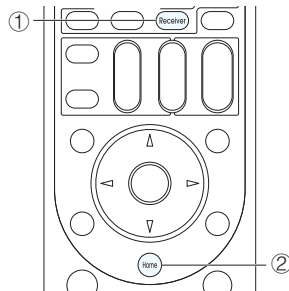
トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試しください。また、映像や音声が出ない、HDMI連動ができないなどの場合、接続しているHDMIケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMIケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

初期設定に戻す

本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。トラブルシュートをお試しになっても改善されない場合、下記の手順で本機をリセットしてみてください。なお、リセットを行うとお客様の設定内容が初期設定に戻ります。リセットの前に設定内容をメモなどに記録してください。

■ リセット方法：

1. 本体のCBL/SATボタンを押しながら（必ず押した状態で2.の操作を行ってください）
2. 本体の⏻On/Standbyボタンを押します。表示部に「Clear」が表示されてスタンバイ状態に戻ります。

■ リモコンのリセット方法：

1. リモコンの①Receiverボタンを押しながら（必ず押した状態で2.の操作を行ってください）
2. ②Homeボタンを①Receiverボタンが点灯するまで3秒以上押します。30秒以内に①Receiverボタンをもう一度押すとリセットされます。

電源

■ 電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■ 本機の電源が切れる場合

- 自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。

■ 電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が動作しています。すぐにコンセントから電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースの接続を確認して異常がなければ、電源コードを抜いた状態で1時間待ちます。そのあと、電源コードを差し込んで、本機の電源を入れてください。それでもなお電源が切れる場合は、リセット操作などは行わないで、電源コードを抜いてから、オンキヨーの販売店にお問い合わせください。

ご注意：表示部に「CHECK SP WIRE」が表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。

警告：煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■ 音声が出力されない/小さい

- 適切な入力ソースが選ばれていることを確認してください。
- 接続ケーブルのプラグが奥まで差し込まれているか確認してください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- 入力が正しく選べているか確認してください。
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin、1…99、Max（100）まで調整できます。一般のご家庭で60前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。
- 表示部のMUTING表示が点滅している場合、リモコンのMutingボタンを押してミューティングを解除してください。
- ヘッドフォンをPhones端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。
- HDMI IN端子に接続したBD/DVDプレーヤーから音が出ない場合は、BD/DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。
- 測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。
- 「音声入力」-「固定モード」が「PCM」または「DTS」になっ

ている場合は、「オフ」に設定してください。

■ フロントスピーカーからしか音が出ない
- StereoまたはMonoのリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをDolby Surroundにすると、センタースピーカーに音が集中します。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ サラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードがStereoやMono、T-D（Theater-Dimensional）のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ センタースピーカーから音が出ない
- リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ サラウンドバックスピーカー、ハイトスピーカー、ワイドスピーカーから音が出ない
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ サブウーファーから音が出ない
- 入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。
- スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。

■ 希望する信号フォーマットで聴くことができない
- Dolby DigitalやDTSの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。
- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

■ Dolby Atmosフォーマットで聴くことができない
- ハイトスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーまたはワイドスピーカーの接続が必要です。それぞれのスピーカーを接続したうえで、「スピーカー詳細設定」の接続設定が正しくされているか確認してください。
- Dolby Atmosでの再生は、入力信号がDolby Atmosのときにのみ、お楽しみいただけます。

■ 希望するリスニングモードが選べない
- スピーカーの接続状況によっては選べないリスニングモードがあります。「リスニングモードの詳細」でご確認ください。

■ 音量に関する設定が希望どおりにならない
- スピーカーの音量レベルを調整したあとは、最大音量は低減されます。

■ ノイズが聴こえる
- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

■ レイトナイト機能が働かない
- 再生ソースがDolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDのいずれかになっているか確認してください。

■ DTS信号について
- DTS信号を再生しているときは、本機のdts表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもdts表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■ HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない
- HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

映像

■ 映像が出ない/乱れる
- すべての接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。
- 各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。
- テレビを本機のHDMI出力端子に接続しているときは「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「モニター出力設定」設定を出力端子に合わせて「MAIN」または「SUB」に設定してください。再生ソースがコンポジットビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI出力端子から出力してテレビで映すには「HDMI入力」設定を「-----」にしてください。
- 映像機器をコンポーネントビデオ入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を割り当て、COMPONENT VIDEO OUT端子にテレビを接続してください。
- 映像機器をコンポジットビデオ入力端子に接続している場合は、MONITOR OUT V端子にテレビを接続してください。
- 映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、HDMI出力端子にテレビを接続してください。
- テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- コンポジットビデオ入力端子から入力された映像が出

ない場合は、選んでいる入力切換にコンポーネントビデオ入力端子が設定されていないか確認してください。設定されていると、その入力切換ではコンポジットビデオ入力端子から入力された映像は出力されません。コンポジットビデオ入力端子接続のみお使いの場合は、コンポーネントビデオ入力端子の設定を「-----」にしてください。
- コンポジットビデオ入力端子に接続した機器の映像を、COMPONENT VIDEO OUT端子に接続したテレビなどのモニターへ変換して出力することはできません。
- 「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「モニター出力設定」で「MAIN+SUB」にしているとき、または「MAIN」にして、かつZONE 2に出力しているときは、HDMI OUT SUB端子に接続しているテレビの入力を本機側で別の入力切換にすると、HDMI OUT MAIN端子側に接続しているテレビの映像は映らなくなります。
- 「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「モニター出力設定」を「MAIN＋SUB」に設定している場合、「解像度」はHDMI OUT MAIN端子にのみ有効です。

■ **HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない**
- HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本体表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。

■ **設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない**
- ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。
- 「6. その他」-「OSD設定」の「オンスクリーンディスプレイ」設定を「オン」にしてください。

AM/FM放送に関して

■ **放送に雑音が入る/FMステレオ放送の時、サーというノイズが多い/FM放送で「FM STEREO」表示が完全に点灯しない**
- アンテナの接続をもう一度確認してください。
- アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- モノラル受信に変更してみてください。
- AM受信時リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。
- それでも受信状態が悪い時は市販の屋外アンテナをおすすめします。

リモコン

■ **リモコン操作ができない**
- リモコンで本機を操作する場合は、必ずReceiverボタンを押してください。
- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したり、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。
- 適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。
- リモコンを使って他社製のAV機器を操作する場合は、一部のボタンが正しく動作しないことがあります。
- 適切なリモコンコードが入力されていることを確認してください。
- 本体とリモコンに同じリモートIDを設定してください。

■ **RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない**
- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンケーブルも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- 適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。

■ **インテグラ/オンキヨー製機器（RI連動なし）や他メーカー機器の操作ができない**
- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選ばれているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

■ **他機のリモコン操作を学習できない**
- 他機のリモコン操作の学習が正しく行われていることを確認してください。
- リモコンによっては、転送システムの違いなどにより、意図したとおりに働かず、まったく学習できない場合があります。

RI ドック

■ **音が出ない**
- iPod/iPhoneが再生していることをご確認してください。
- iPod/iPhoneがドックに正しく接続されているか確認してください。
- 本機の電源が入っているか、適切な入力が選ばれているか、音量が小さくなっていないか確認してください。
- 接続コードやケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。
- 一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。

■ **映像が出ない**
- iPod/iPhoneのテレビ出力設定が有効に設定されているか確認してください。
- 本機またはテレビで適切な入力が選ばれているか確認してください。
- iPod/iPhoneの機種・世代によっては、映像は出力されません。

■ iPod/iPhoneが本機のリモコンで操作できない
- iPod/iPhoneがドックにしっかり接続されているか確認してください。iPod/iPhoneをケースなどに入れている場合は、完全に接続できないことがありますので、必ずケースをはずして接続してください。
- iPod/iPhoneの表示部にAppleロゴが表示されている間は操作できません。
- 適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。
- 本機のリモコンで操作する場合、リモコンは本機に向けて操作してください。
- リモコン操作をする前に、iPod/iPhone本体で再生させて入力切換を認識させる必要のある場合があります。
- 一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。
- iPod/iPhoneの機種・世代によっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。

■ 本機の入力が勝手に切り換わる
- iPod/iPhoneの再生を一時停止しておいてください。iPod/iPhone再生検出機能により、再生曲が切り換わったときなどに、本機の入力が切り換わってしまいます。

■ iPod/iPhoneが正しく動作しない
- 一度iPod/iPhoneをドックから抜き、再度接続してみてください。

マルチゾーン機能

■ 音が出ない
- CDプレーヤーなど、HDMI出力端子を持たない機器と接続する場合は、本機のアナログオーディオ入力端子に接続してください。光デジタルケーブルや同軸デジタルケーブルの接続ではマルチゾーン出力はできません。また、アナログ接続を行った場合、再生機器側でアナログ音声出力の設定が必要なことがあります。

NET/USB機能

■ ネットワークサーバーが使用できない
- NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。
- ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。
- ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。
- ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 本機の「7. ハードウェア設定」-「ネットワーク」の設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。

■ ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる
- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- PCをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア(Windows Media® Player 12など)以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- PCで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

■ インターネットラジオが聴けない
- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。
- 特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録したURLが正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機に対応しているものか確認してください。
- NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
- 他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
- ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 本機の「7. ハードウェア設定」-「ネットワーク」の設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。
- ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いのISPがサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

■ インターネットブラウザで本機の情報を表示できない
- インターネットブラウザに本機のIPアドレスが正しく入力されているか確認してください。
- IPアドレスの割り当てにDHCPを使用している場合、本機のIPアドレスが変わっている可能性があります。
- 本機とPCの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

■ USBストレージが表示されない
- USBストレージやUSBケーブルが本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USBストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機のUSB端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- コンテンツの種類によっては正常に再生できないことがあります。対応フォーマットをご確認ください。
- セキュリティ機能付きのUSBストレージの動作は保証できません。

その他

■ 待機時消費電力について
- 次の場合は、待機時消費電力が最大5Wになる場合があります。
  - 「7. ハードウェア設定」-「ネットワーク」の「ネットワークスタンバイ」設定が「オン」のとき
  - 「7. ハードウェア設定」-「HDMI」-「HDMI CEC (RIHD)」設定が「オン」のとき(ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります)
  - 「7. ハードウェア設定」-「HDMI」-「HDMIスルー」設定を「オフ」以外に設定しているとき
- AUX Input HDMI/MHL端子に接続しているMHL (Mobile High-definitionLink)対応のモバイル機器を充電している場合、スタンバイ状態での消費電力が上記の数字より増加する場合があります。

■ ヘッドホンを接続すると音が変わる
- Direct、Mono以外のリスニングモードを選んでいる場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereoになります。

■ 多重音声の言語を切り換えたい
- 「3. 音の設定・調整」の「多重音声/モノラル」-「多重音声入力チャンネル」の設定で「主」または「副」を選びます。

■ RI連動機能が働かない
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。
- ゾーン2/ゾーン3を選んでいる場合、連動機能は働きません。

■ RI接続している機器でシステムオン、オートパワーオン、ダイレクトチェンジの機能が働かない
- ゾーン2/ゾーン3への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。

■ 自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る
- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

■ 本体表示部が暗い
- Dimmer機能が働いていませんか？Dimmerボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。

■ コンポーネントビデオ/コンポジットビデオ入力に関する設定
- 設定する入力切換ボタンを押しながら、Homeボタンを1回ずつ押して、表示部に「VideoATT:On」を表示させます。設定を再開するには、上記の手順で表示部に「Video ATT:Off」を表示させます。
  この設定ができるのは、「1. 入力/出力端子の割り当て」-「コンポーネント映像入力」または「コンポジット映像入力」の設定で「VIDEO1～3」のいずれかが割り当てられた入力切換ボタンです。ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。
  Video ATT:Off：（お買い上げ時の設定）
  Video ATT:On：（信号を2dB減衰します）

■ HDMI出力端子に接続しているテレビ/モニターの映像が安定しない
- DeepColorの機能をオフに切り換えてみてください。DeepColor機能をオフにするには、STB/DVRボタンと⏻On/Standbyボタンを同時に押してください。STB/DVRボタンを押しながら、表示部に「Deep Color:Off」が表示されるまで⏻On/Standbyボタンをくり返し押してください。DeepColor機能をオンするには、上記の手順で「Deep Color:On」が表示されるまでボタンを押してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

HDMI OUT MAIN/SUBの対応解像度

ここでは、入力信号の種類や解像度に対して、本機で出力できる映像信号の種類や解像度を説明しています。また、「Input：Output（入力：出力）」の順で、対応できる解像度を以下のように示しています。

■ HDMI : HDMI
4K : 4K（＊1）
1080p/24 : 4K, 2560 × 1080p
2560 × 1080p : 4K（＊2）
1680 × 720p : 4K（＊2）, 1080p/24, 2560 × 1080p, 1080p/24
1080p : 4K（＊3）, 2560 × 1080p
1080i : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 720p
720p : 4K（＊3）, 1080p/24, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i
480p : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p
480i : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p, 480p

■ HDMI : Component
出力できません。

■ HDMI : Composite
出力できません。

■ Component : HDMI
1080p : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1080p
1080i : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i
720p : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p
480p : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p, 480p
480i : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p, 480p, 480i

■ Component : Component
1080p : 1080p
1080i : 1080i
720p : 720p
480p : 480p
480i : 480i

■ Composite : HDMI
480i : 4K（＊3）, 2560 × 1080p, 1680 × 720p, 1080p, 1080i, 720p, 480p, 480i

■ Composite : Composite
480i : 480i

＊1 対応解像度：[3840 × 2160 24/30/60 Hz] [4096 × 2160 24/30/60 Hz]
＊2 対応解像度：[3840 x 2160 24/30 Hz]
＊3 対応解像度：[3840 x 2160 24/30 Hz] [4096 × 2160 24/30 Hz]

＊PC INから入力された映像信号は、そのままの解像度で出力されます。対応解像度は、[640 × 480 60 Hz] [800 × 600 60 Hz] [1024 × 768 60 Hz]です。

HDMI OUT ZONE2の対応解像度

HDMI OUT ZONE2は、HDMI INからの入力信号のみ出力します。

■ HDMI : HDMI
4K : 4K
1080p/24 : 1080p/24
2560 × 1080p : 2560 × 1080p
1680 × 720p : 1680 × 720p
1080p : 1080p
1080i : 1080i
720p : 720p
480p : 480p
480i : 480i

参考情報

CEC対応機器との連動動作について

下記の製品と互換性があります（2014年1月現在）。

テレビ（順不同）：
- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- 日立製のWoooリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ
- シャープ製のAQUOSファミリンク対応テレビ

プレーヤー、レコーダー（順不同）：
- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のAQUOSファミリンク対応プレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意：連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。以下より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしかねます。また、本機にHDMIを介して他のAVレシーバーを接続しないでください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台

HDMI連動動作の設定が有効かを確認するには

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   - 本機の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを接続している入力が選ばれる。
   - テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選ばれる。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意：
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RIやRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまくいかないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
- テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「TV/CD」に切り換わります。
- 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
- 本機のリモコンでプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。リモコンにその機器のメーカーのリモコンコードを登録してご使用ください。

HDMIについて

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応したデジタルインターフェース規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声ケーブルが個別に必要でした。HDMIでは、1本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、デジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。
HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）（＊1）規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）
本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）（＊2）に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。
本機のHDMIは以下の機能に対応しています。
オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、Deep Color、LipSync、4K（Upscaling, Passthrough）

本機の対応音声フォーマット：
- 2チャンネルリニアPCM（32～192 kHz、16/20/24 bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192 kHz、16/20/24 bit）
- ビットストリーム（Dolby Atmos、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）
- DSD

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について：
本機のHDMI端子はデジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP(High-bandwidth Digital Content Protection)（＊2）のRevision1.4および2.2規格（HDMI OUT MAIN端子およびHDMI IN3 端子のみ対応）に準拠しています。本機と接続する機器もHDCP規格に準拠している必要があります。

＊1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG（＊3）が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。
＊2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要です。
＊3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

ご注意：
- HDCP Rev. 2.2に準拠した機器のみが視聴可能なコンテンツがあります。このようなコンテンツを視聴するためにはHDCP Rev. 2.2規格に準拠したテレビおよびプレーヤー機器を本機のHDMI OUT MAIN端子およびHDMI IN3端子に接続してください。
- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ホームネットワーク（LAN）について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではPCやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のPCで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークはLAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、このLANのことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。
本機はPCなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（PC内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。
このとき、本機とPCやインターネットを直接接続するわけではありません。
PCやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器：
本機のNET機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下のとおりです。

■ ルータ
本機とPCや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。
- 本機では100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータの使用を推奨します。
- また、DHCP機能搭載のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約するISP業者が推奨するルータをご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されているISPにご相談ください。

■ イーサネットケーブル（CAT-5）
ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このイーサネットケーブルです。イーサネットケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。
- 本機ではCAT-5に適合したイーサネットストレートケーブルを使用します。

イーサネットケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

■ ネットワークサーバー（PCなど/ネットワークサーバー使用時）
音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。
- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（PCの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

■ モデム（インターネットラジオ使用時）
ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネット接続には、契約するISP業者が推奨するモデムをご使用ください。
1台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。
以上のネットワーク機器のうち、NET機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。
NET機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、モデム（およびISPとの契約）が必要になります。

サーバーについて

■ ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する
本機は以下のネットワークサーバーに対応しています。
- Windows Media® Player 11
- Windows Media® Player 12
- DLNA準拠サーバー

ネットワークサーバーは本機と同じネットワークに接続していなければなりません。
1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

ご注意：メディアサーバーの種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

■ リモート再生する

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA準拠のコントローラー機器やPCを操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

- Windows Media® Player 12
- DLNA 1.5準拠のネットワークサーバー、コントローラー機器
  - ＊設定方法は使用するネットワークサーバーやコントローラー機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows® 8/Windows® 7では、Windows Media® Player 12が標準でインストールされています。詳しくは、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

USBデバイスについて

- 本機ではUSB Mass Storage Class規格に対応しているUSBストレージを使用できます。
- USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

ご注意：

- 接続したメディアが対応していない場合、本体表示部に「No Storage」というメッセージが表示されます。
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオプレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機のUSB端子にPCを接続しないでください。本機のUSB端子にはPCから音声を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機のUSB端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBストレージに対応していません。

対応音声フォーマットについて

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次のとおりです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 12をお使いの場合、PCに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 12のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- 本機はUSB再生における下記条件時でのギャップレス再生に対応しています。
  WAV、FLAC、AppleLossless再生時、同一のフォーマット、サンプリング周波数、チャンネル数、量子化ビット数が連続再生される場合
- リモート再生は、ギャップレス再生に対応していません。
- 対応サンプリングレート88.2kHz以上、またはDSD、Dolby TrueHDは、無線LAN経由での再生には対応していません。

ご注意：

- 本機のリモート再生では、次のフォーマットには対応していません。
  – FLAC、Ogg Vorbis、DSD、Dolby TrueHD

■ MP3（.mp3または.MP3）

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■ WMA（.wmaまたは.WMA）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、16 kHz、22.05 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbpsおよびVBR
- WMA Pro/Voice非対応

■ WMA Lossless（.wmaまたは.WMA）

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■ WAV（.wavまたは.WAV）

WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit
  - ＊176.4 kHzと192 kHzは、USB再生には対応していません。

■ AAC（.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GPまたは.3G2）

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■ FLAC（.flacまたは.FLAC）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit
  - ＊176.4 kHzと192 kHzは、USB再生には対応していません。

■ Ogg Vorbis（.oggまたは.OGG）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、16 kHz、22.05 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：32～500 kbpsおよびVBR
- 互換性のないファイルは再生できません。

■ LPCM（Linear PCM）
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 量子化ビット：16 bit

＊ DLNA経由での再生のみに対応しています。

■ Apple Lossless（.m4a/.mp4/.M4A/.MP4）
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、 96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■ DSD（.dsfまたは.DSF）
- 対応サンプリングレート：2.8224 MHz、5.6448 MHz

＊ 5.6448 MHzは、USB再生には対応していません。

■ Dolby TrueHD（.vr/.mlp/.VR/.MLP）
- 対応サンプリングレート：48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

＊ USB再生は、48 kHzのみ対応しています。

＊ DLNA経由での再生には対応していません。

リモコンコード一覧

■ 衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー/地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
サムスン	02407, 02015, 01877, 03477, 01060, 01987, 02589, 03265, 03063, 00253, 01377, 01989, 02467, 00853, 03321, 01662, 01693, 03834
ソニー	00847, 00853
ティアック	02813
東芝	01284
パイオニア	00853, 01877
パナソニック	00847, 01982
日立	01284, 02034
ビデオトロン	01877
ヒューマックス	02616
フィリップス	01582, 02294, 00099, 00853, 01114, 02619, 00856, 00887, 02211, 03469
Arris	02187
Scientific Atlanta	01877, 01982, 00858, 01987, 02401, 02436, 02345, 03028
SKY PerfecTV! (スカパー！)	02616

■ IPテレビ

ブランド名	コード番号
Scientific Atlanta	00858, 02345, 03028

■ IPテレビ/PVR一体型

ブランド名	コード番号
フィリップス	02294
Scientific Atlanta	00858, 02345, 02401, 03028

■ CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
インテグラ	71817
オンキヨー	71817, 71327, 71818, 71819
ケンウッド	70036, 70157
サンスイ	70157
ソニー	70000, 70490
タスカム	73533, 73095, 73511
ティアック	73531, 73551, 73532
テクニクス	70029, 70303
デノン	70766
パイオニア	70032
パナソニック	70029, 70303
ビクター/JVC	70072
日立	70032
フィリップス	70157
マランツ	70157
ヤマハ	70036

■ カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
オンキヨー	42157
ケンウッド	40070
サンスイ	40029
ソニー	40243, 40170
テクニクス	40229
デノン	40076
パイオニア	40027
パナソニック	40229
ビクター/JVC	40244
フィリップス	40029, 40229
マランツ	40029
ヤマハ	40097

■ アクセサリ

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82990, 82994, 82995
Apple	81115
Jamo	82228
Polk Audio	82228

■ ビデオアクセサリ

ブランド名	コード番号
フィリップス	01272
ポップコーンアワー	02260
マイクロソフト	01805, 01272
Apple	02615
Xbox	01805

■ レシーバー

ブランド名	コード番号
インテグラ	52503
オンキヨー	52503, 52504, 52505, 53860

■ テレビ

ブランド名	コード番号
ウェスティングハウス	11712, 11826, 11755, 12397
エプソン/セイコーエプソン	11379
オーディオテクニカ	11150
オリオン	10037, 10556, 10714, 11037, 12676
サムスン	12051
サンヨー	11974
シャープ	11165, 10818, 12360
ソニー	10810, 11167, 11651, 12778, 10000, 11150
ティアック	10037, 11037, 10698, 10714, 11755, 10171, 10178
テクニクス	10556, 10650
東芝	11169, 11524, 13570
ナショナル	10208, 10508
パイオニア	11457, 12171
バイ・デザイン	12209
パナソニック	11636, 12170, 13825
ビクター/JVC	11428, 10653, 11150
日立	10178, 11691, 11150, 12170
フィリップス	10037, 12372
富士通ゼネラル	10809
フナイ	11817, 10171
マランツ	10556, 10037
三菱	11171, 10178, 12313, 11150

ヤマハ	10650, 11576
ユニデン	12122
DXアンテナ	11817
Hyundai	11037, 10698, 12676
LG	11840, 11860, 12731, 12362
NEC	12461, 10178, 10508, 10653, 11150
Remotec	10037, 10171
Teco	10178, 10653
Visio	11758, 12209
Wyse	11365

■ ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
ソニー	20636
パナソニック	20616
ヒューマックス	20739
フィリップス	20739

■ DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533
インテグラ	32147, 30627, 31769, 30503, 31612, 30571, 31634
オリオン	30713, 31233
オンキヨー	30627, 31612, 31417, 31418
ケンウッド	30490
サムスン	30199, 33195
サンヨー	32966, 30713, 31233
シャープ	30630, 30675, 32250
ソニー	30533, 31033, 31070, 31516, 31633, 32180
テクニクス	30490
デノン	30490, 31634, 32258, 32748, 33851
東芝	30503, 32551, 32705, 31769
パイオニア	30571, 30631, 31571, 32854
バイ・デザイン	30872
パナソニック	30490, 31579, 31641, 32523, 33641, 33862
ビクター/JVC	30623
日立	31664
ヒューマックス	30646
フィリップス	30539, 30646
フナイ	30675
マイクロソフト	31708, 32083
マランツ	33444
三菱	34004
ヤマハ	30490
ラックスマン	30573
Dewo	31634
Elite	32854
Emerson	30675
LG	31602
NEC	30741, 31602
Sylvania	30675
Xbox	31708, 32083, 30522

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
サムスン	30199, 33195
シャープ	32250
ソニー	31516, 32180
タスカム	34004, 31818
デノン	32258, 32748, 33851
東芝	32551, 32705, 33157
パイオニア	30142, 32442, 32854
パナソニック	31641, 33641, 33862, 32523, 32710
フィリップス	32084, 32434, 32789
フナイ	30675
マランツ	32414, 33444
ヤマハ	32298
LG	30741, 31602

■ DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
サムスン	30490, 31635, 32489
シャープ	30630, 30675
ソニー	32861, 31070, 31516, 31033, 31536, 32180, 31633
デノン	30490
東芝	32277, 32551
パイオニア	30631
パナソニック	30490, 31579, 32523, 32710
日立	31664
ヒューマックス	30646
フィリップス	30646, 31340
フナイ	30675
ヤマハ	30646
LG	30741

■ テレビ/DVD一体型、テレビ/VCR一体型

ブランド名	コード番号
シャープ	10818, 12360, 12676, 32966
ソニー	12778
ティアック	10698
東芝	11524, 12676, 32966
パナソニック	12170
ビクター/JVC	12271, 11774
日立	12676, 11037, 30713, 32966
フィリップス	10556, 11454, 11394, 12372, 30539
三菱	34004
LG	11423

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。